

校内資料

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成20年度

在学生・卒業生・企業・教職員

KTC総合アンケート調査結果

[報告書 抜粋]

金沢工業高等専門学校

平成20年度KTC総合アンケート調査結果について

KTC総合アンケートは開始から6年目となり、本校のFD活動の要の1つとしてその重要性を増してきた。アンケート活動に関する学生の対応も年毎に向上しており、好ましい限りである。真摯な回答が得られるにつれ、対応する学校側の責任の度合いが増してきているのは、深く認識する必要がある。評価のみ求めて改善は後回しと言うやり方は、この種活動の最も忌みすべき行動である。KTC教育評価委員会は、本アンケート結果と各種評価結果を総合的に分析し、本校の進むべき方向を模索し必要な具体的施策を提言することとなる。

本年度のアンケート結果には、企業並びに卒業生からのご意見も含まれている。5年間隔で実施することにしてきた企業アンケートにおいては、設問項目の変更もあり経年変化を明らかにできていないが、地域密着型の高専として方向を打ち出している本校の今後の課題となる。

学校は、理想的には人間形成の場として、社会からは即戦力養成の場として、学生からは知識吸収や日々の楽しみ場の場として、並びに、教職員にはなりわいと個人の幸せ追及の場として存在している。どの要素を重視するかは難しい問題である。しかし、私学が公立学校と異なる点は、この学校がある「理念」の下に存在し、それを追及する人間の集まりとして存在しているということである。

今回の特徴は、結果の経年変化部分にある。学生の本校に対する印象度が逐年向上したことは嬉しいことである。しかし、その反面、教職員は多忙感や業務集中を訴えている。一方で喜び、一方で嘆く必要がある。

アンケートの総合判定結果や多くの意見は、上記観点に立って真摯に評価されるべきであり、その結果、各種の提言は明日への改善の加速器として活用されることとなる。本校は、学校・教職員、保護者、学生の三位一体となった教育改善活動を行ってきた。改善活動の第2期に入っている今時、この結果を今後の学校改革の具体策の中に活用して行きたい。

今結果の総括と分析にご協力賜ったアイポイント、並びにCS室の方々に感謝申し上げます。

金沢工業高等専門学校
校長 山田 弘文

全体概略

調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- この調査企画では、在学生のみならず、卒業生、教職員、企業担当者にも金沢高専の評価を聞き、各々の意識の違いを見いだすことで、今後の学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。
- 本調査は平成15年度から続いており、今回で6回目となる。これまでは大部分の設問を固定して経年変化を確認してきたが、今回は大きく内容を見直しているため、経年変化が確認できない項目が多くなっている。
- 平成17年度の調査までは年度末(2月初旬)に実施し、平成18年度と平成19年度は9月中旬の実施に変更し、今回は再度年度末の実施に戻している。

調査の概略

| 項目 | 内容 | |
|----------|---------------------------|---|
| 調査概略 | 調査票による自記入式調査とし、全て無記名式とした。 | |
| 総回答数 | 778サンプル | |
| 対象者と実施方法 | 新入生 | <ul style="list-style-type: none">有効回答数 82サンプル各クラスで配布し、回収した。(配布:4月14日、回収:4月14日)一部の回答を比較したため集計対象数に加えたが、報告書は別途作成している。 |
| | 1年生～5年生 | <ul style="list-style-type: none">有効回答数 1年生:110サンプル、2年生:105サンプル、3年生:95サンプル、4年生:103サンプル、5年生:111サンプル各クラスで配布し、回収した。(配布:2月13日、回収:2月13日)2年生で学科が未記入であった1サンプルは無効として集計から除外した。 |
| | 卒業生 | <ul style="list-style-type: none">有効回答数 77サンプル郵送にて配布・回収した。(発送:3月2日、回答締切:3月31日)5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成25年度の予定。 |
| | 教職員 | <ul style="list-style-type: none">有効回答数 59サンプル各教職員に配布し、回収した。(配布:2月13日、回収:3月14日) |
| | 企業担当者 | <ul style="list-style-type: none">有効回答数 36サンプル郵送にて配布・回収した。(発送:3月2日、回答締切:3月31日)5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成25年度の予定。 |
| 調査主体 | 学校法人 金沢工業大学 | |
| 集計 | 有限会社 アイ・ポイント | |

集計に関して

| 分野 | 注意点 |
|----------|---|
| 加重平均に関して | <ul style="list-style-type: none"> 各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。 |
| グラフに関して | <ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に、本来の棒グラフでは見にくくなるために折れ線グラフで表現しているものもある。 |
| 呼称に関して | <ul style="list-style-type: none"> 本報告書の中では3つの学部は以下の略称で表記している。 「電気情報工学科」「電気情報」、「機械工学科」「機械工学」、「国際コミュニケーション情報工学科」「国際コミ」 |

回答者数に関して

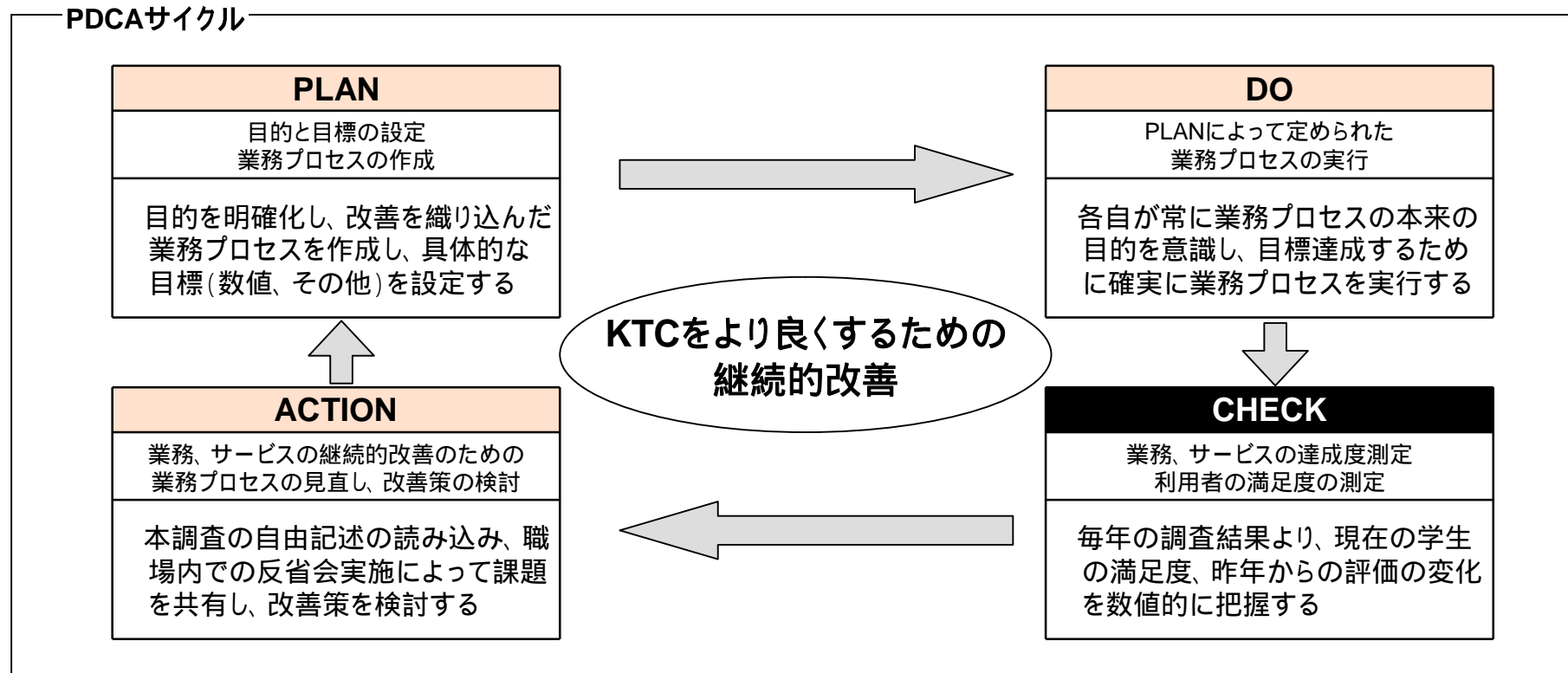
| 学年 | 平成20年度 回答者(今回分) | 平成19年度 回答者 | 平成18年度 回答者 | 平成17年度 回答者数 | 平成16年度 回答者数 | 平成15年度 回答者数 |
|-------|--------------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|
| 新入生 | 82人 | | | | | |
| 1年 | 110人 | 92人 | 121人 | 122人 | 135人 | 140人 |
| 2年 | 105人 | 108人 | 117人 | 130人 | 135人 | 127人 |
| 3年 | 95人 | 88人 | 113人 | 113人 | 98人 | 113人 |
| 4年 | 103人 | 114人 | 121人 | 113人 | 109人 | 121人 |
| 5年 | 111人 | 124人 | 105人 | 101人 | 116人 | 129人 |
| 卒業生 | 77人 | 0人(実施せず) | 0人(実施せず) | 0人(実施せず) | 0人(実施せず) | 66人 |
| 教職員 | 59人 | 52人 | 50人 | 48人 | 56人 | 50人 |
| 企業担当者 | 36人 | 0人(実施せず) | 0人(実施せず) | 0人(実施せず) | 0人(実施せず) | 65人 |
| 合計 | 778人 | 578人 | 627人 | 627人 | 649人 | 811人 |

今回は一部で「新入生」との比較も行っているため、「新入生」の回答数も表に加えている。

PDCAサイクルに関して

PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、下記のようにCHECKステップに位置づけられる。(昨年と同内容)



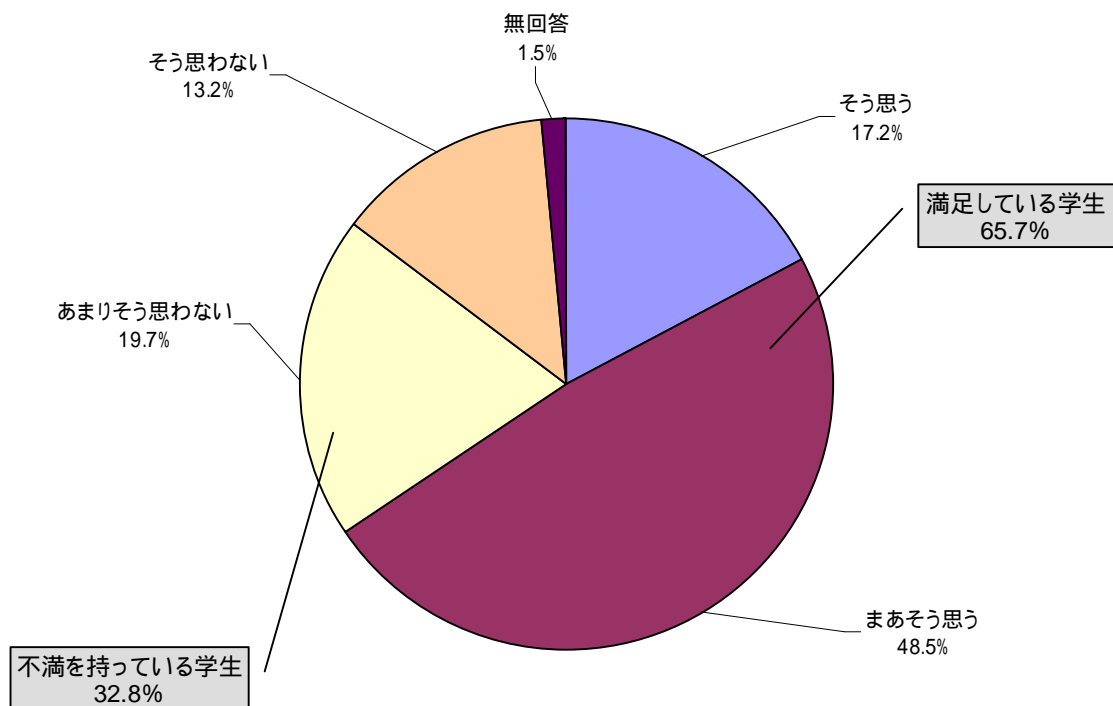
- 今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。
- また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、金沢高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考と位置づけられる。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。
- 本報告書は、上記のような位置づけを継続していくことで、金沢高専の改善に資することを目的としている。

金沢高専の総合的な満足度

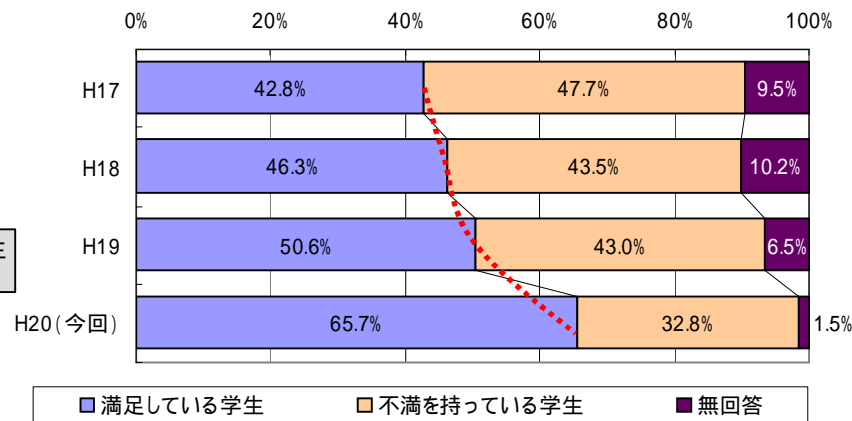
本年度の総合的な満足度

- 「総合的に見て金沢高専に満足していますか？」という質問に対しては、「そう思う」が17.2%、「まあそう思う」が48.5%であり、合わせると65.7%が金沢高専に満足していると答えており、満足度の高さがうかがえた。
- 前回までは選択肢に「わからない」があり、それも「不明・無回答」に加えて集計していたが、今回からは「わからない」という選択肢は置かず、純粋な無回答のみを「無回答」として集計している。また、「まあそう思う」は前回まで「どちらかといえばそう思う」と聞いており、同様に「あまりそう思わない」は「どちらかといえばそう思わない」と聞いていた。そして、調査の時期もH18、H19は秋であったが、今回は年度末の実施となっている。このような質問方法の変更の影響も考えられるが、参考のため年度別の比較を行った。
- 金沢高専に満足している学生は、調査開始のH17から年々増加の傾向にあったが、今回はH19の50.6%から15.1ポイント増加しており、一気に満足度が上がっていることが分かる。ここには調査方法の変更や時期の変更の影響もあると思われるが、それを考慮しても大幅に満足度が向上していると言って良いものと思われる。

総合的に見て金沢高専に満足していますか？(在校生のみ)



金沢高専の総合的な満足度 年度別比較



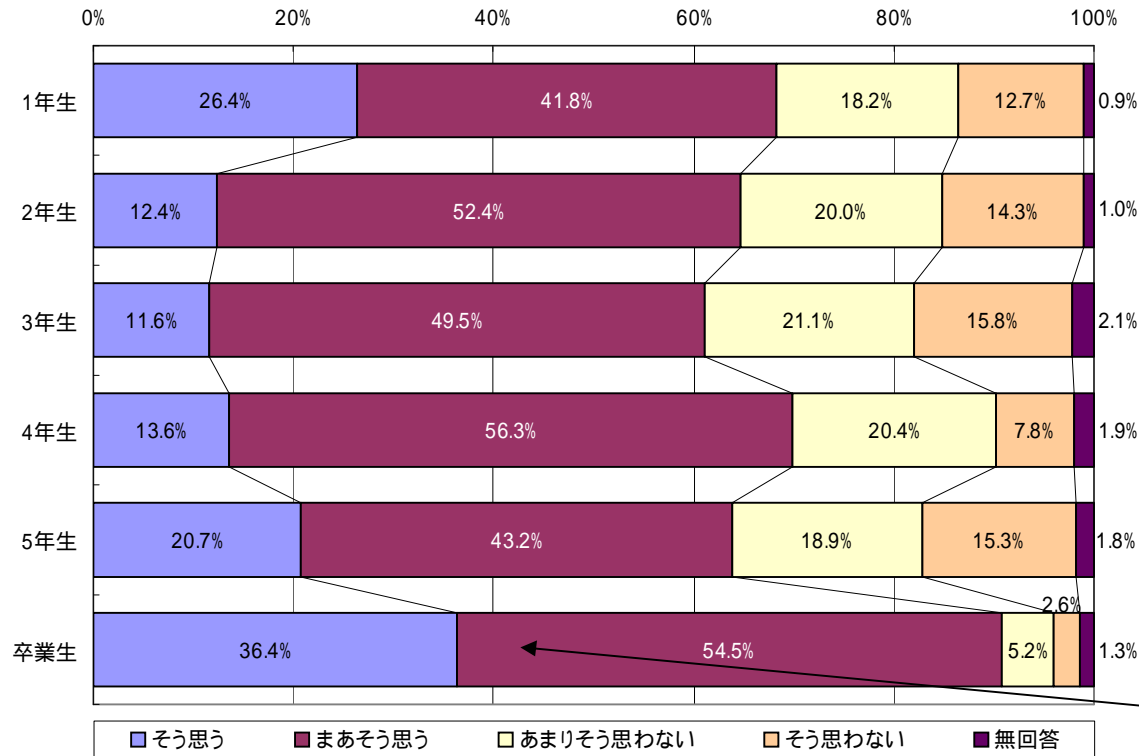
金沢高専の総合的な満足度 年度別内訳

| 年度 | 満足している学生の合計 | | 不満を持っている学生の合計 |
|---------|-------------|---|---------------|
| H17 | 42.8% | < | 47.7% |
| H18 | 46.3% | > | 43.5% |
| H19 | 50.6% | > | 43.0% |
| H20(今回) | 65.7% | > | 32.8% |

総合的満足度の学年別比較

- 前項で見た高専の総合満足度を学年別に比較した。前項の結果は在校生全体の結果であったが、ここでは「卒業生」も加えて比較を行っている。
- 「そう思う」だけを見ると、「卒業生」が36.4%と最も多く、「1年生」「5年生」が20%台、「2年生」「3年生」「4年生」が10%台であった。
- 「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合で見ると、「卒業生」は90.9%と大多数が満足していることが分かったが、在學生は全て60%台であり、最も高い「4年生」と最も低い「3年生」を比べると8.8ポイントの差があった。
- 「卒業生」を除いた全学年では、6割以上の学生が満足しているが、「3年生」の満足度はやや低いようである。「そう思う」だけを見ると「1年生」と「5年生」で多く、一部の学生は強く満足しているようである。

金沢高専の総合的満足度 学年別比較



金沢高専の総合的満足度 学年別内訳

| 学年 | 満足している学生の合計 | | 不満を持っている学生の合計 |
|-----|-------------|---|---------------|
| 1年生 | 68.2% | > | 30.9% |
| 2年生 | 64.8% | > | 34.3% |
| 3年生 | 61.1% | > | 36.9% |
| 4年生 | 69.9% | > | 28.2% |
| 5年生 | 63.9% | > | 34.2% |
| 卒業生 | 90.9% | > | 7.8% |

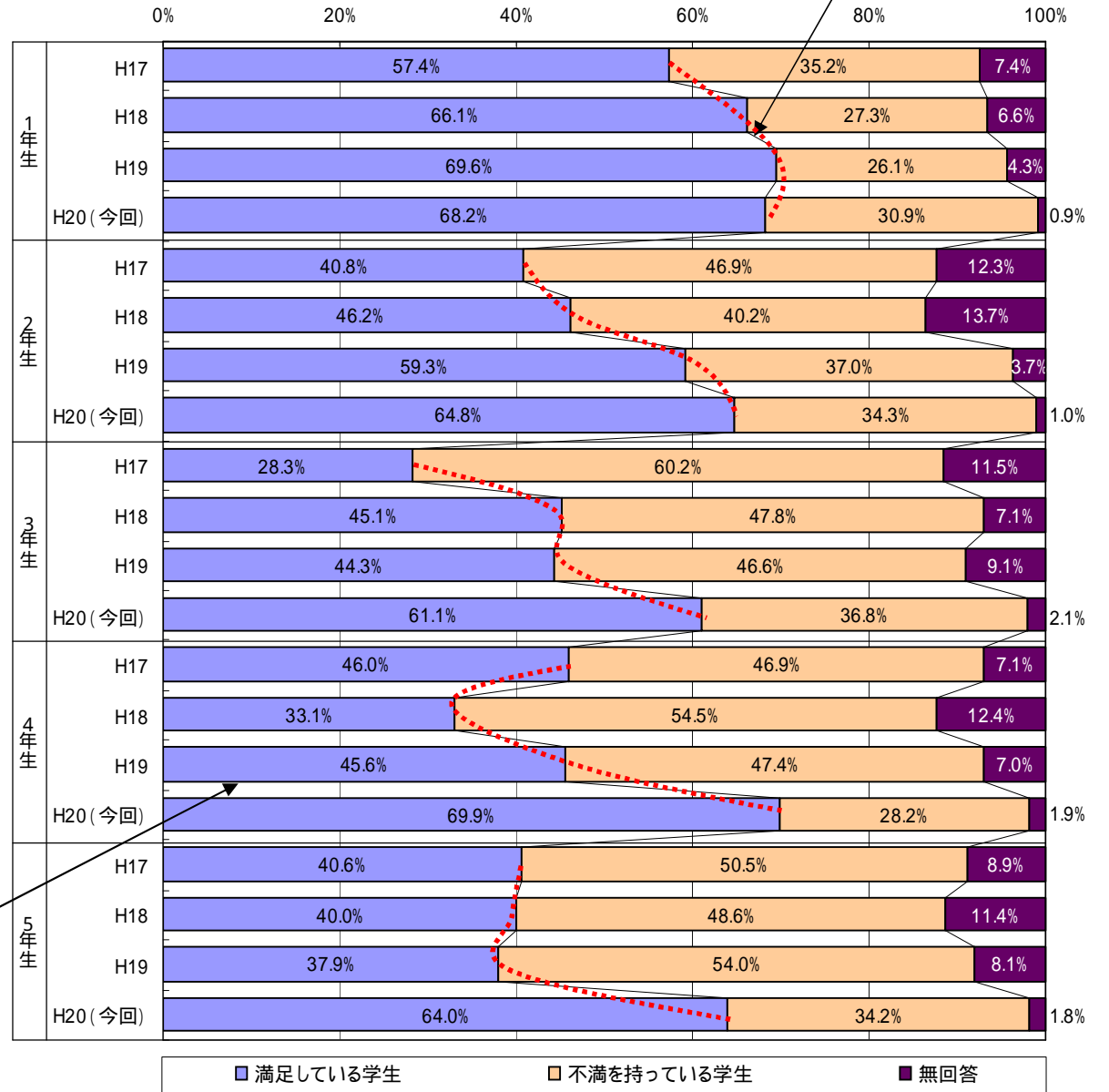
すべての属性で「満足」の割合が「不満」を超えた

「卒業生」の満足度は非常に高い

- 年度別には徐々に満足している学生が増加していたが、それを学年別に比較した。
- 前項で見たように「1年生」の満足度は高かったが、前回と比べるとわずかに「満足している学生」の割合は低下していた。前回より低下していたのは「1年生」だけであった。
- 他の学年では増加幅の差はあるものの、全ての学年で前回より向上していることが確認できた。
- 特に「3年生」～「5年生」は前回の同学年の学生と比べると大幅に「満足している学生」の割合が増加しており、「3年生」で16.8ポイント、「4年生」で24.3ポイント、「5年生」で26.1ポイント上昇していた。

金沢高専の総合的満足度 学年別・年度別比較

1年生のみ前回より満足度が低下

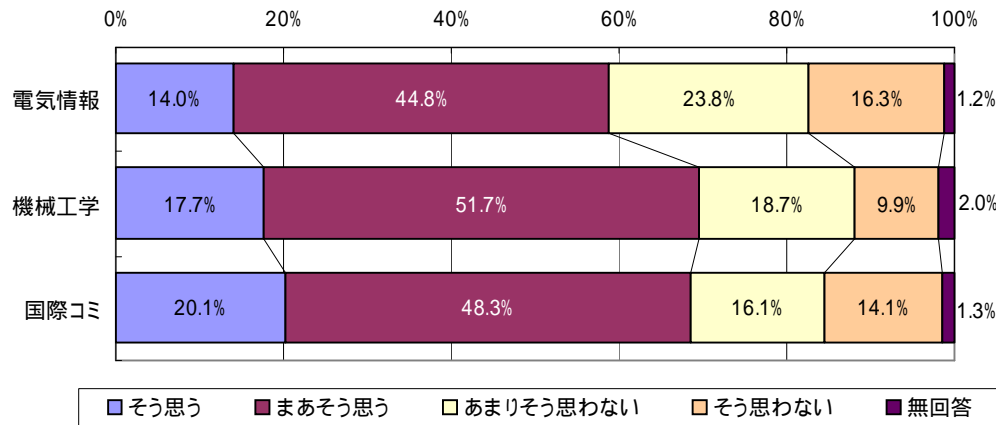


3、4、5年生は前年より大幅に満足度が向上

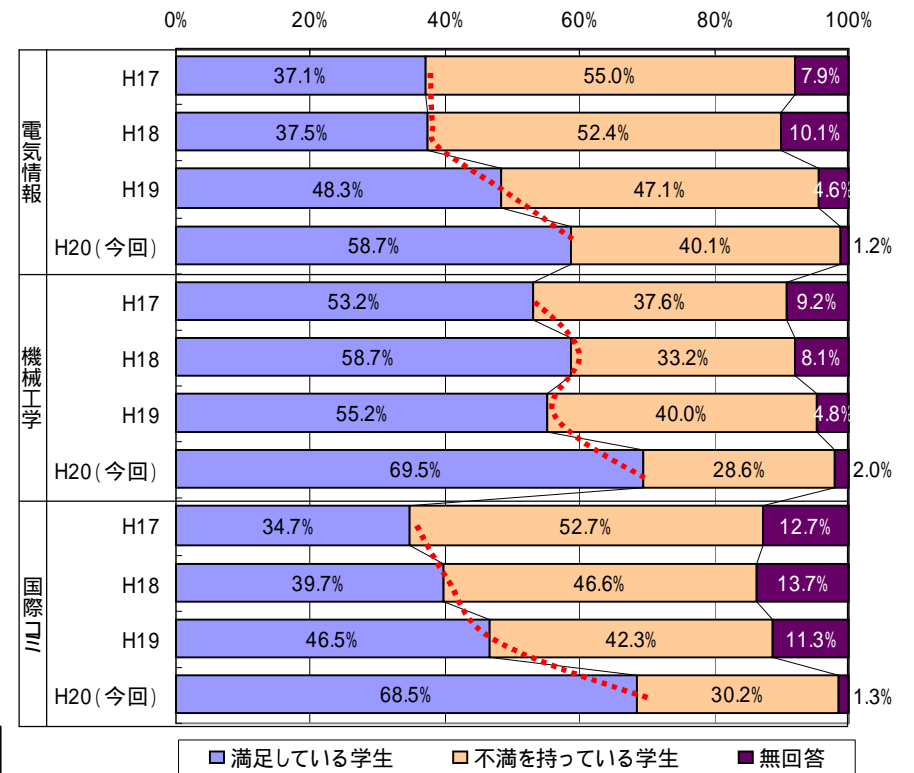
総合的満足度の学科別比較

- 総合的満足度を学科別に比較した。グラフで「そう思う」だけを見ると「国際コミ」が20.1%と最も高く、「機械工学」(17.7%)、「電気情報」(14.0%)の順であった。しかし、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合で見ると「機械工学」が「国際コミ」をわずかではあるが上回っており、「電気情報」では満足している学生の割合が58.7%と6割を下回っていた。
- 年度による変化を学科別に見ると、3学科ともに前回よりも満足度は上がっているが、「国際コミ」は前回よりも22.0ポイントと、大幅に向上していた。そして、「電気情報」は10.4ポイント、「機械工学」は14.3ポイントの向上であった。

金沢高専の総合的満足度 学科別比較 (在学生のみ)



金沢高専の総合的満足度 学科別・年度別比較



金沢高専の総合的満足度 学科別内訳

| 学年 | 満足している学生の合計 | | 不満を持っている学生の合計 |
|------|-------------|---|---------------|
| 電気情報 | 58.7% | > | 40.1% |
| 機械工学 | 69.5% | > | 28.6% |
| 国際コミ | 68.5% | > | 30.2% |

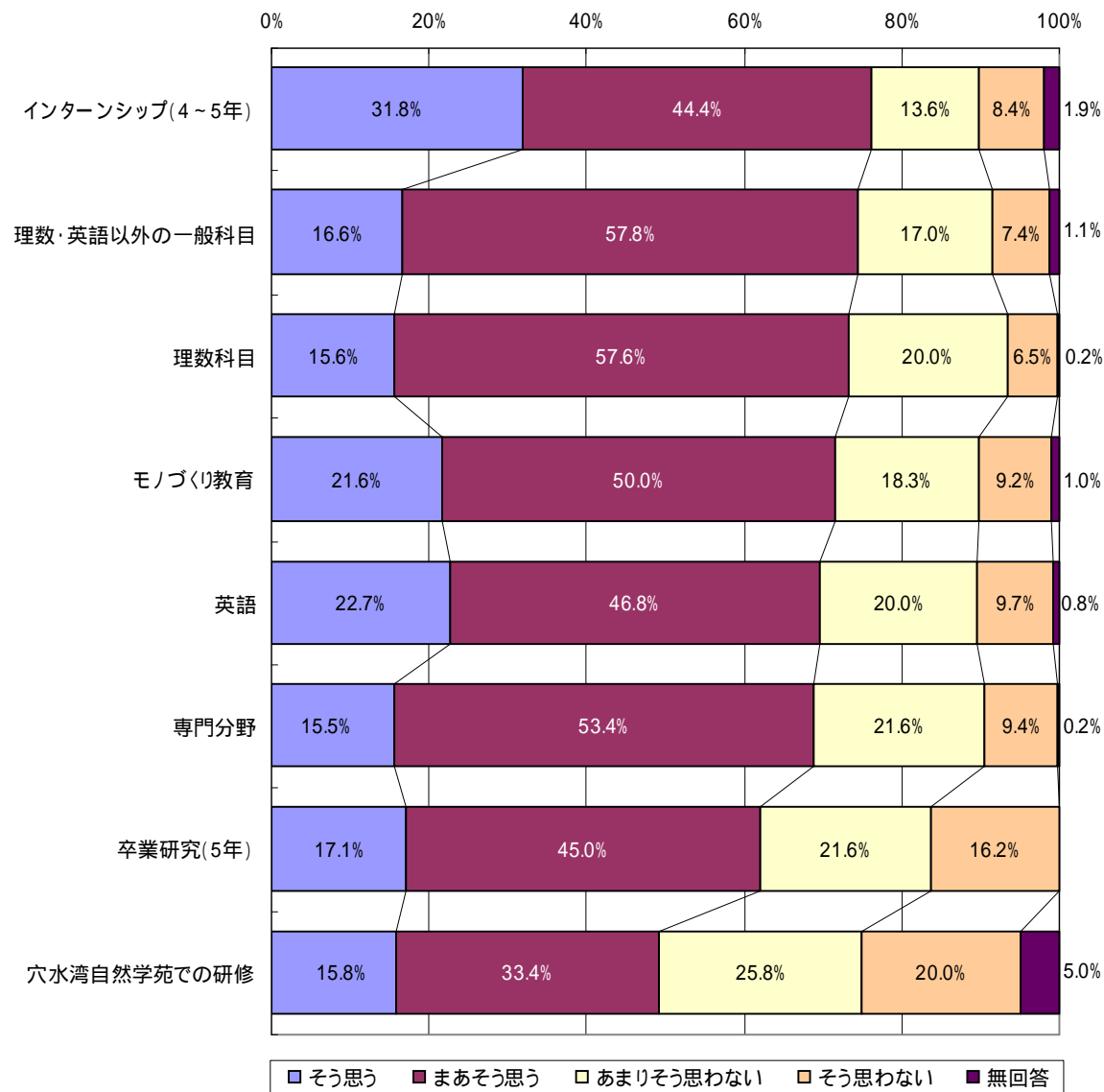
全学科共に満足している学生の方が多い

授業に関して

授業に対する評価

- 授業に対する満足度で、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合が最も高かったのは4年生と5年生だけの科目である「インターンシップ」であり、76.2%が満足していた。
- 次いで、「理数・英語以外の一般科目」(74.4%)、「理数科目」(73.2%)、「モノづくり教育」(71.6%)と続いており、ここまでの4科目では7割以上が満足と答えていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「穴水湾自然学苑での研修」であり、満足という回答は49.2%にとどまった。そして、「卒業研究(5年)」は62.1%が満足と答えており、他の科目と比べるとやや満足度は低かった。

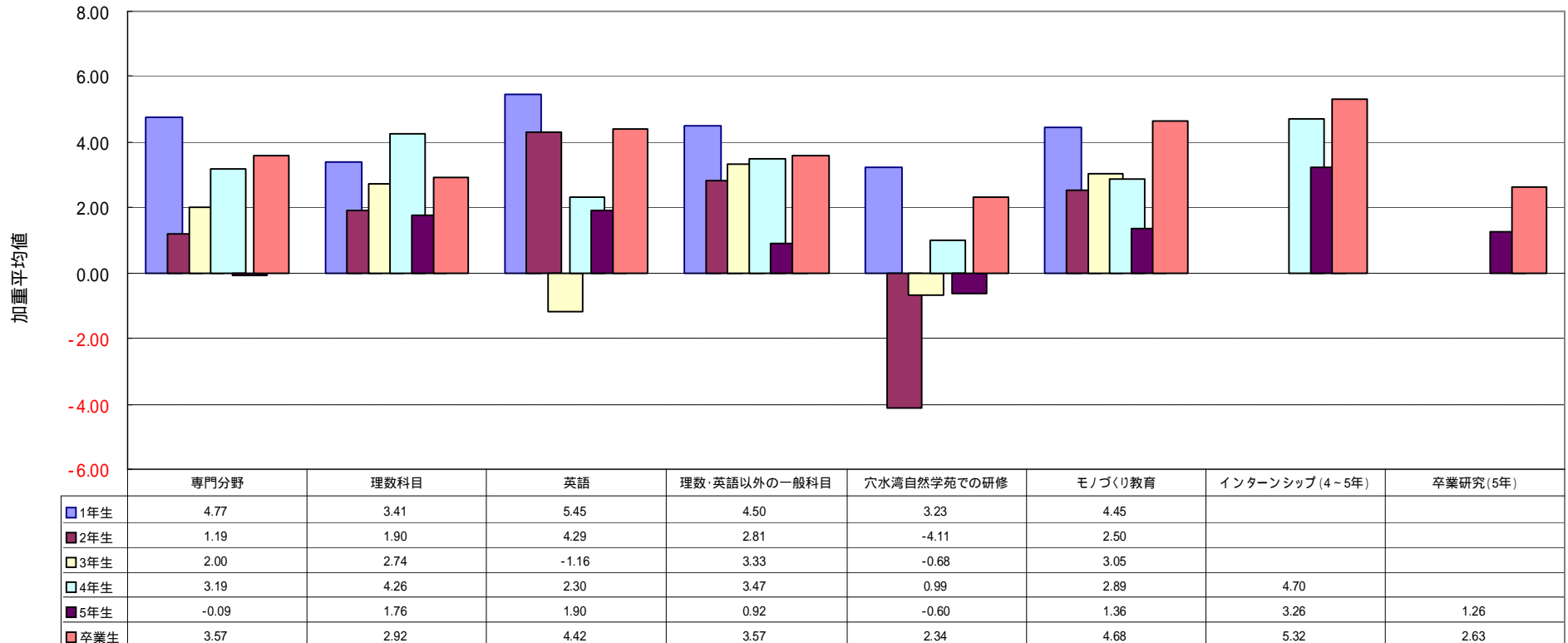
授業に対する満足度(在学生のみ)



授業に対する評価の学年別比較

- 学年別に授業の評価を見ると、1年生は全般的に満足度が高く、特に「専門分野」「英語」「理数・英語以外の一般科目」「穴水湾自然学苑での研修」などの満足度が高く、授業において充実している様子がうかがえる。
- 2年生は全般的に低く、特に「穴水湾自然学苑での研修」に大きな不満を感じている。3年生は全学年の中間といった満足度であったが、「英語」の満足度が低い点が特徴的であり、「穴水湾自然学苑での研修」の評価もマイナスとなっていた。
- 4年生も中間の満足度であったが、「理数科目」の満足度は全学年の中で最も高かった。
- 5年生は前に見ているように高専の総合的満足度は高かったが、授業の満足度は全体的に低く、「専門分野」「理数科目」「理数・英語以外の一般科目」「モノづくり教育」で全学年中最も低く、「専門分野」ではわずかではあるがマイナススコアとなっていた。また、「インターンシップ」の満足度も低かった。
- 卒業生は全般的に満足度が高く、「モノづくり教育」「インターンシップ」「卒業研究」は全体の中で最も高かった。

授業評価 学年別比較

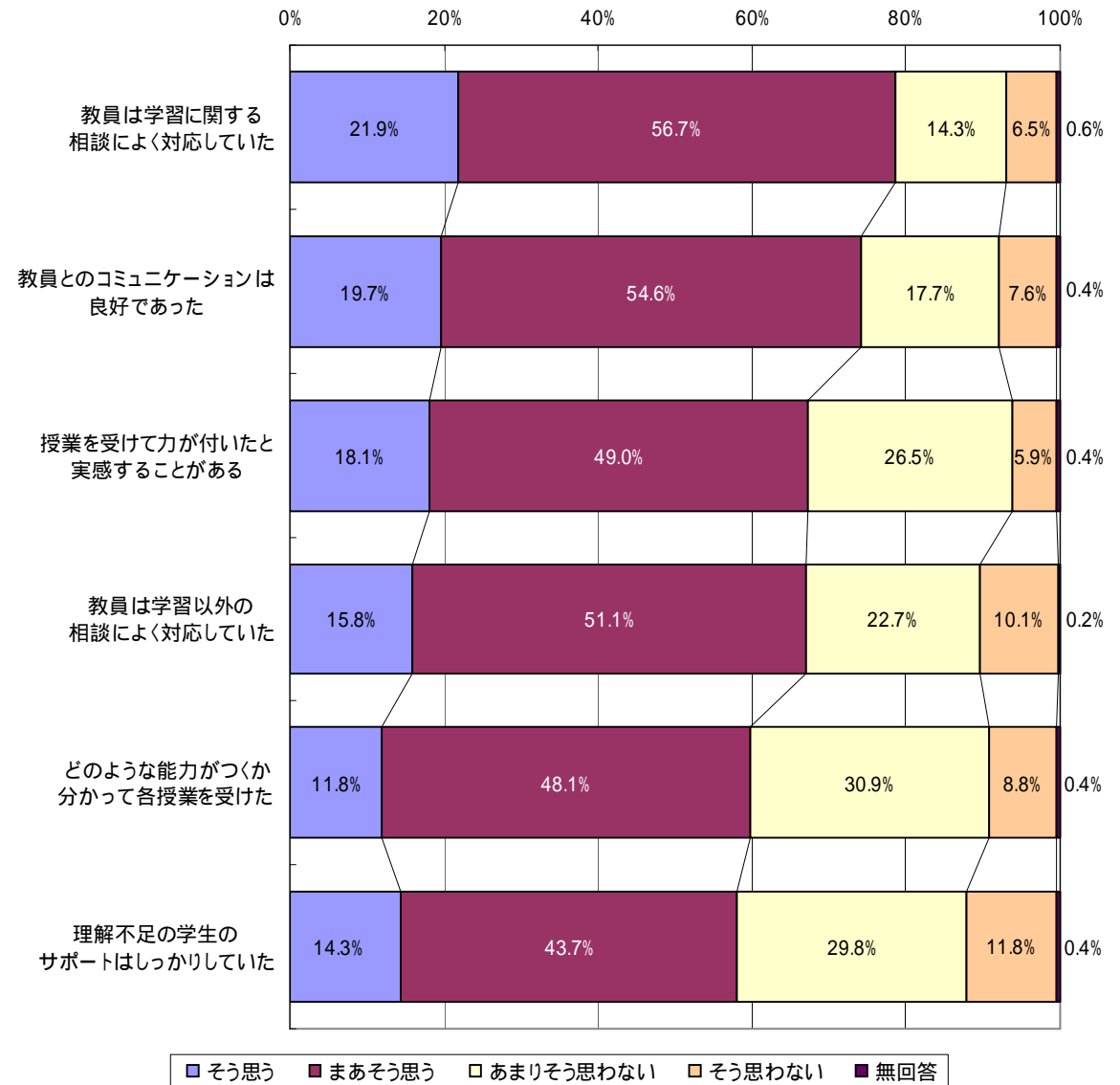


教員および学習支援に関して

教員および学習支援の満足度

- 教員および学習支援の満足度に関して、「そう思う」と「まあそう思う」の合計が最も高かった項目は「教員は学習に関する相談によく対応していた」であり、78.6%が肯定的な意見であった。
- 上記の他に「教員とのコミュニケーションは良好であった」では74.3%、「教員は学習以外の相談によく対応していた」では66.9%が肯定的な意見であり、教員に関する項目では7～8割が満足していると答えている。
- 学習支援に関しては、「授業を受けて力が付いたと実感することがある」では67.1%が肯定的な意見であった。
- そして、「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」では肯定的な意見が58.0%、「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」では肯定的な意見が59.9%であった。決して大きな不満があるわけではないが、他の項目と比べるとこのあたりにやや不満があるものと思われる。

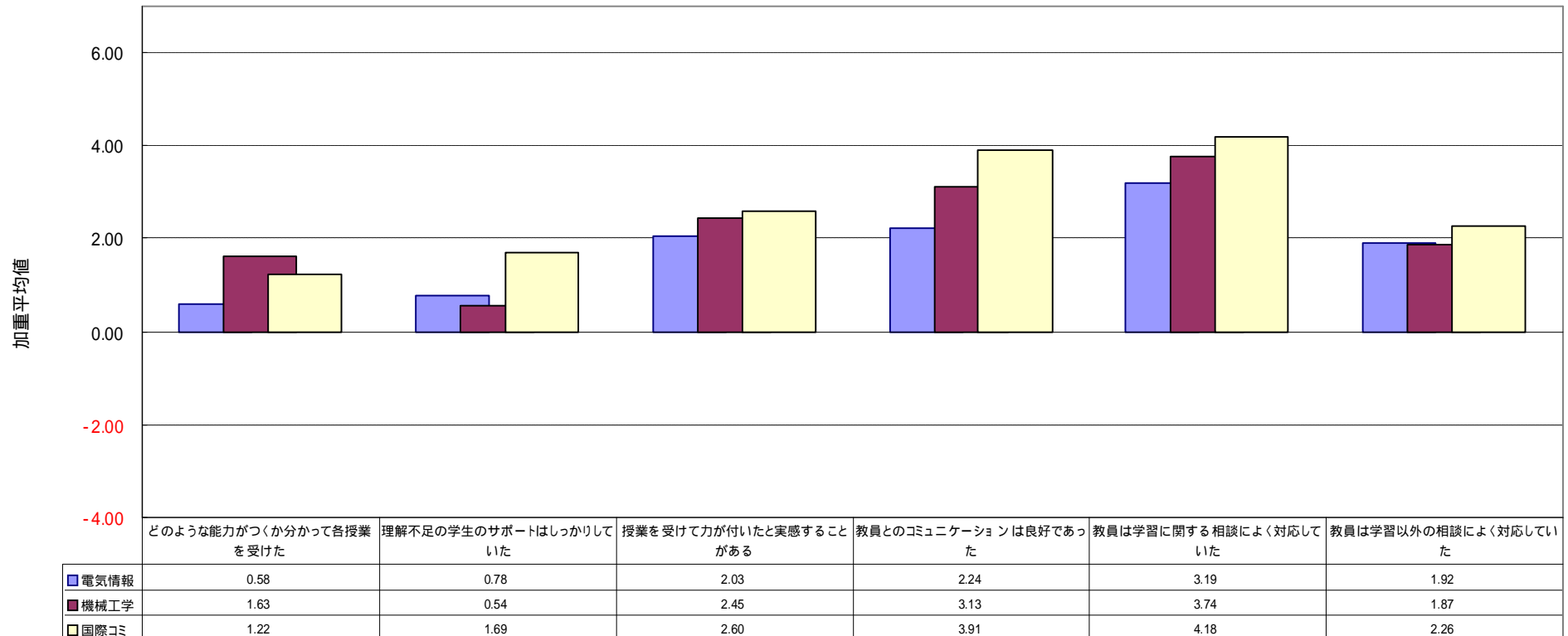
教員および学習支援の満足度 (在学生のみ)



教員および学習支援の満足度の学科別比較

- 教員および学習支援の評価を学科別に比較したところ、例外はあるが「国際コミ」の評価が高く、「電気情報」の評価が低いという傾向が見られた。
- 学習支援に関しては、「どのような能力がつくか分かって各授業を受けた」では「機械工学」が高く、「電気情報」が低い傾向があり、「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」では「国際コミ」の高さが目立っていた。
- 「授業を受けて力が付いたと実感することがある」「教員とのコミュニケーションは良好であった」「教員は学習に関する相談によく対応していた」の3つは「国際コミ」が高く、「電気情報」が低い傾向にあった。また、「教員は学習以外の相談によく対応していた」でも「国際コミ」の高さが目立っていた。
- これらを見ると教員の対応や授業支援に関しては「国際コミ」がうまく回転しており、学生の要望によく応えることができていると言える。

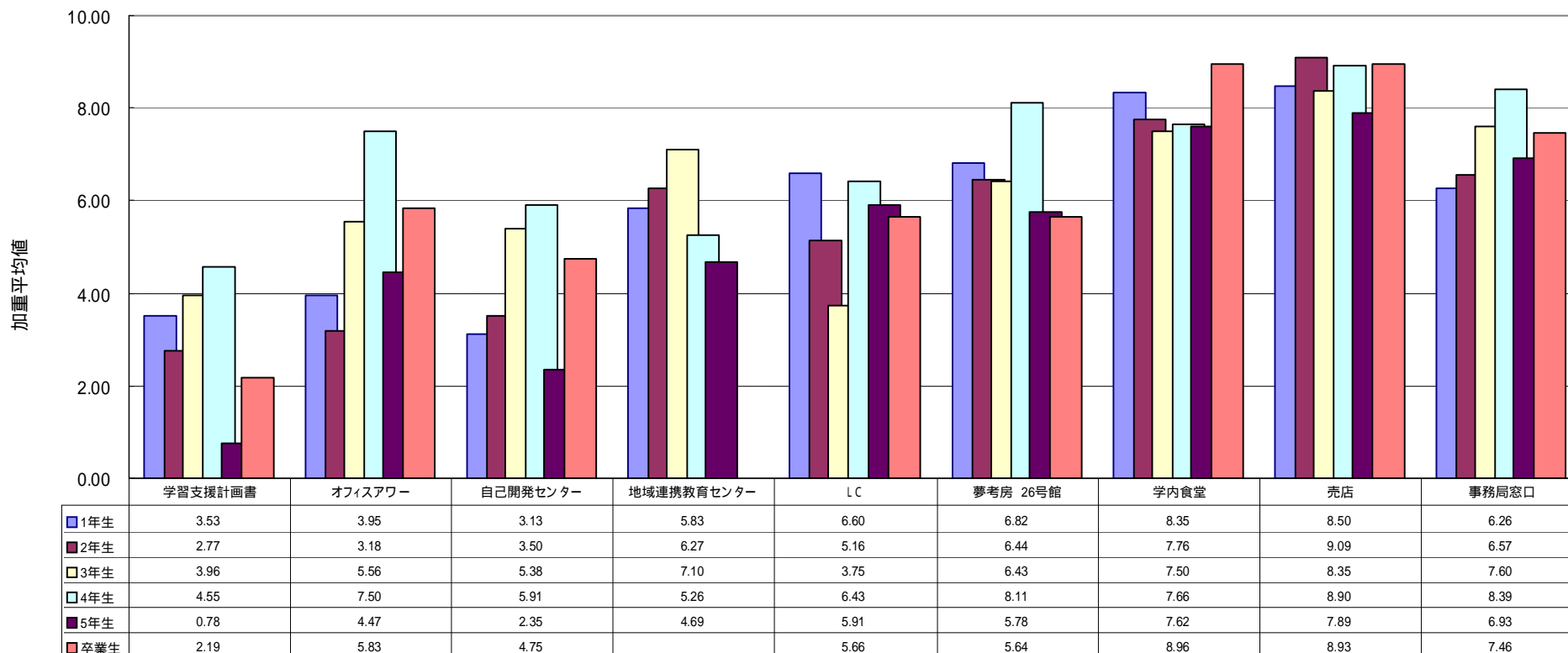
教員および学習支援評価 学科別比較



学生サポートの満足度(利用者のみ)の学年別比較

- 学生サポートの利用者の満足度を学年別に比較したところ、学年との明確な相関関係は見られなかった。
- 1年生は全体的に中間程度であったが「事務局窓口」の満足度が低く、「LC」の満足度は高かった。2年生は全体的に低めであり、「オフィスアワー」の満足度が全学年中最も低く、「売店」の評価はやや高かった。
- 3年生は「地域連携教育センター」の満足度は最も高く、「LC」の満足度が低かった。4年生は全体的に高く、特に「学習支援計画書」「オフィスアワー」「自己開発センター」「夢考房26号館」「事務局窓口」の満足度が高く、学生サポートに満足している様子がうかがえた。
- 5年生は「学習支援計画書」「自己開発センター」「地域連携教育センター」「売店」の評価が最も低く、学習サポートに不満がありそうであった。卒業生も学習支援計画書の満足度がやや低く、「学内食堂」の評価が高かった。
- 項目別に見ると「学内食堂」「売店」は学年による評価に差がなく、「学習支援計画書」「オフィスアワー」「自己開発センター」の評価はやや差が大きかった。

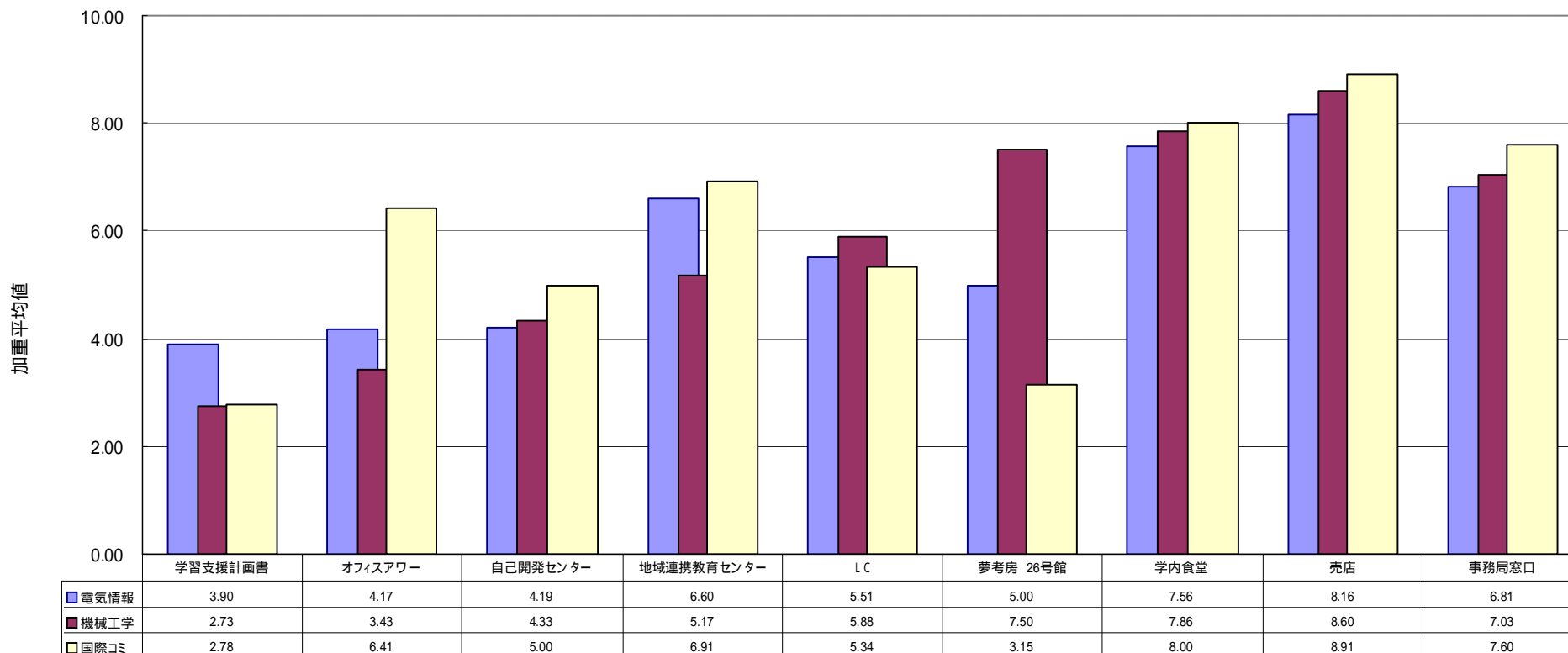
学生サポート評価 学年別比較



学生サポートの満足度(利用者のみ)の学科別比較

- 学科による学生サポートの満足度の差を見たところ、全体的「国際コミ」がやや高めの傾向が見られた。
- 「電気情報」は「学習支援計画書」の満足度の高さが目立っており、「地域連携教育センター」の満足度も高めであった。そして、それほど差は大きくないが「自己開発センター」「学内食堂」「売店」「事務局窓口」の評価が低かった。
- 「機械工学」は「夢考房26号館」の満足度が非常に高い点が特徴的であり、ここを満足して使っている様子が見える。また、「LC」の評価も高かった。一方、「オフィスアワー」「地域連携教育センター」の評価は低かった。
- 「国際コミ」は全体的に満足度が高く、中でも「オフィスアワー」の高さが特徴的であった。他にも「地域連携教育センター」「学内食堂」「売店」「事務局窓口」の評価も全学年中、最も高かった。一方、「LC」「夢考房26号館」の評価は低く、このあたりの評価は「機械工学」と逆となっていた。

学生サポート評価 学科別比較

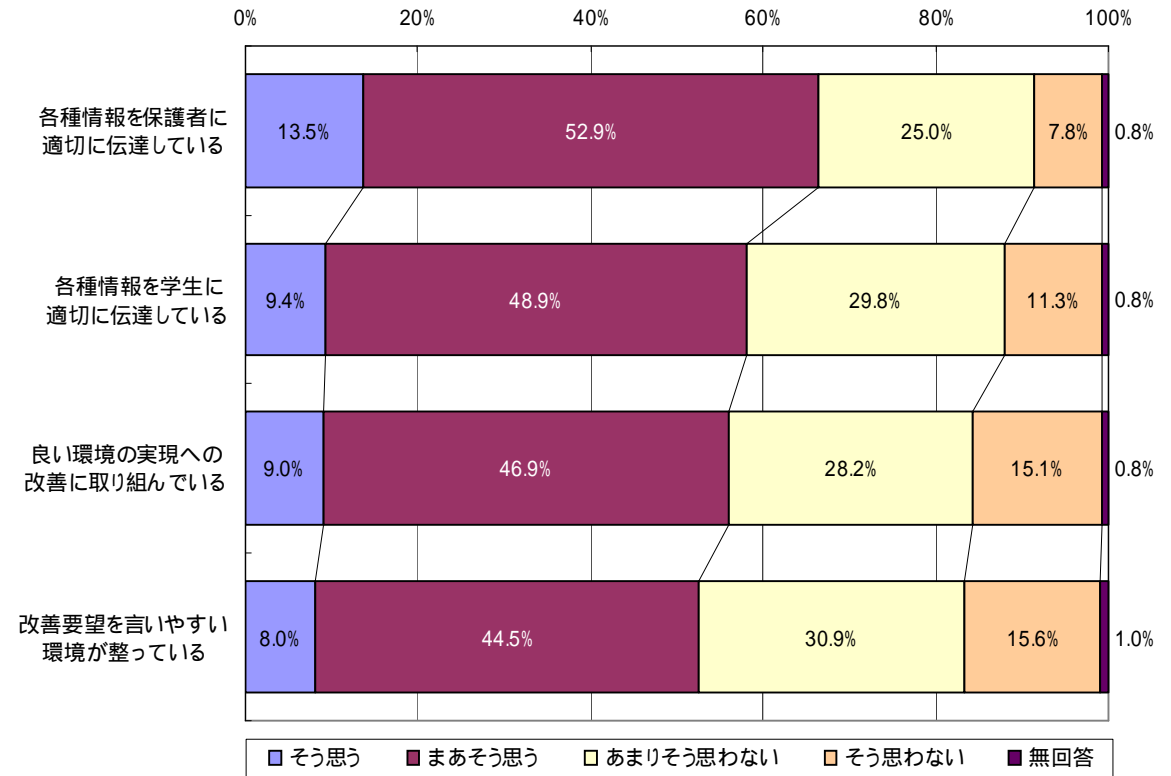


学校の取り組み姿勢に関して

学校の取り組み姿勢

- 今回から、学生への情報伝達や学校の改善状況など、学校の取り組み姿勢に関する4つの質問を新設した。
- 「各種情報を保護者に適切に伝達している」に対しては、「そう思う」が13.5%、「まあそう思う」が52.9%であり、合わせると66.4%が適切であると答えていた。
- 次いで「各種情報を学生に適切に伝達している」では、「そう思う」が9.4%、「まあそう思う」が48.9%であり、合わせて58.3%が適切であると答えていた。
- 同様に「そう思う」と「まあそう思う」の合計で見ると、「良い環境の実現への改善に取り組んでいる」では55.9%、「改善要望を言いやすい環境が整っている」では52.5%が肯定的な意見であった。
- これらを見ると、いずれに関しても過半数は肯定的な意見であったが、情報伝達に関しては3～4割が不満を感じており、半数近くは改善が進んでいるとは感じておらず、改善要望が言いやすい環境とは感じていないと言え、この評価をしっかりと受け止めて活かしていくことが重要と言える。

学校の取り組み姿勢の評価 (在学生のみ)

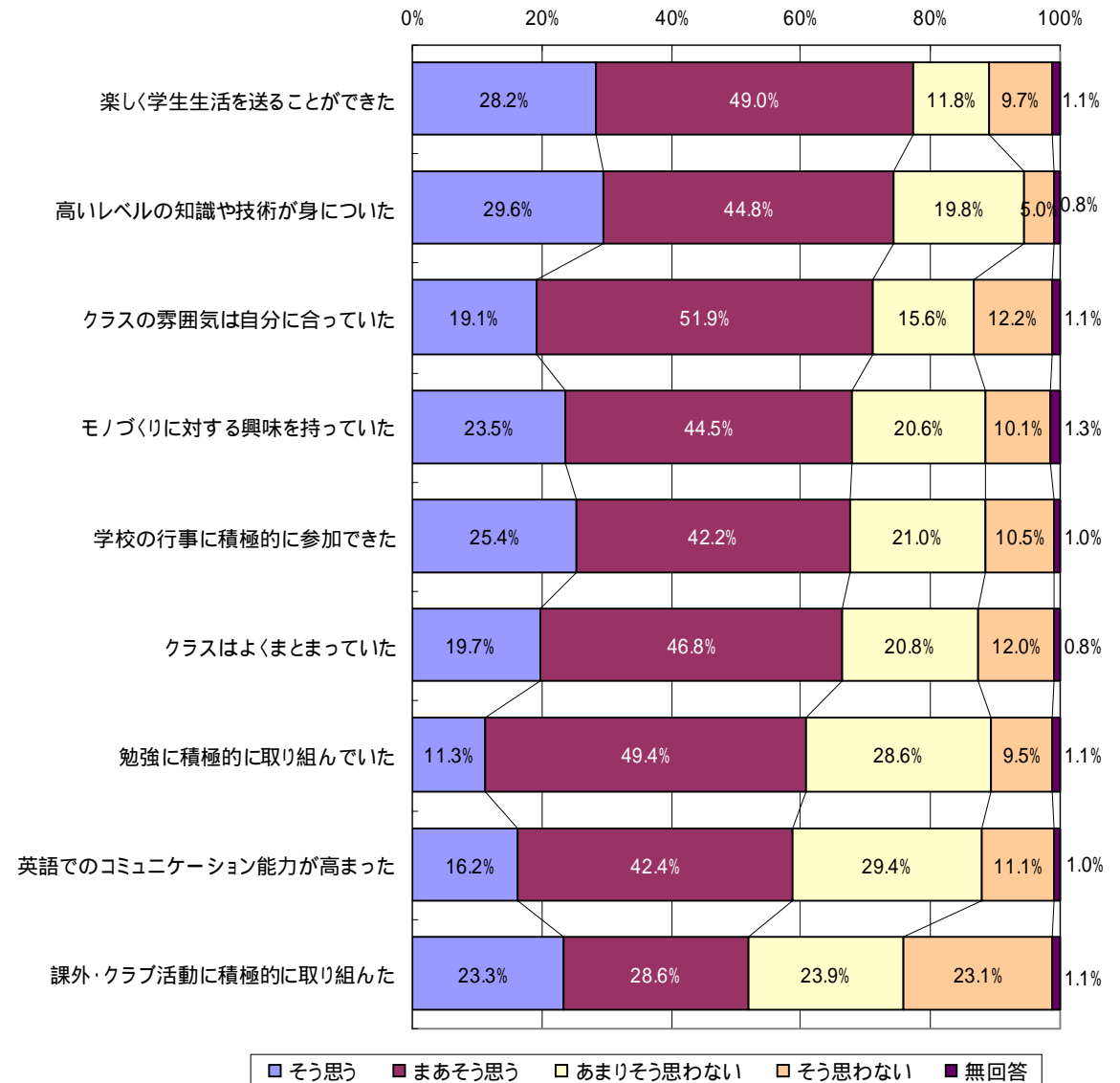


学校での過ごし方に関して

学校での過ごし方

- 学校での過ごし方に関して、「そう思う」と「まあそう思う」の合計で見ると、「楽しく学生生活を送ることができた」は77.2%が肯定的な意見であった。高い数値ではあるが、残りの20%程度がどのように過ごしているのか気になると言える。
- 次いで「高いレベルの知識や技術が身についた」は74.4%、「クラスの雰囲気は自分に合っていた」は71.0%、「モノづくりに対する興味を持っていた」は68.0%が肯定的な意見であった。
- 一方、低かったのは「課外・クラブ活動に積極的に取り組んだ」(51.9%)、「英語でのコミュニケーション能力が高まった」(58.6%)、「勉強に積極的に取り組んでいた」(60.7%)などであった。
- 特徴的であったのは「課外・クラブ活動に積極的に取り組んだ」であり、「まあそう思う」と「あまりそう思わない」が少なく、「そう思う」と「そう思わない」の両極が多い点が特徴であった。

学校での過ごし方(在学生のみ)

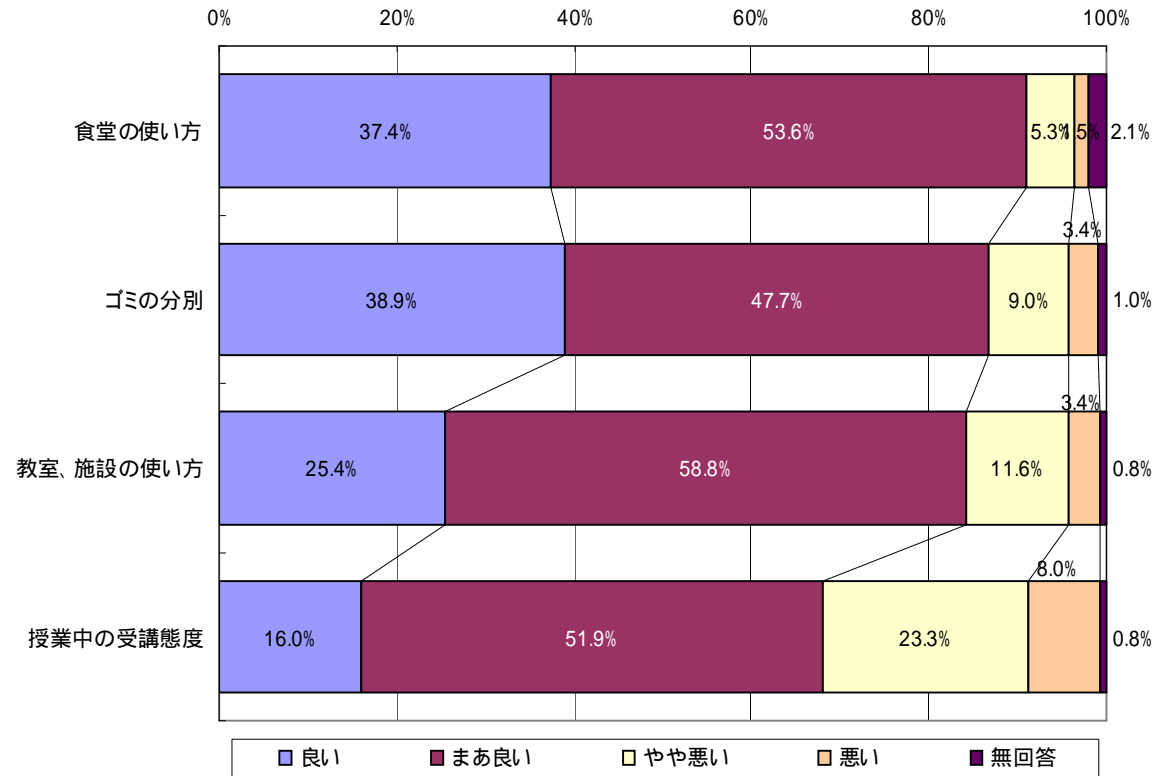


学内での自分自身のマナーに関して

学内での自分自身のマナー

- 学内での自分自身のマナーをどのように評価しているかを聞いたところ、4項目ともおよそ7割以上は問題ないと評価しており、マナーに関して大きな問題は感じていないようであった。
- 「食堂の使い方」のマナーに関しては37.4%が「良い」、53.6%が「まあ良い」と答えており、合わせると91.0%は食堂の使い方に問題ないという自己評価であった。
- 「ゴミの分別」でも86.6%が良いと答えており、「教室、施設の使い方」も「良い」だけを見ると25.4%とやや少なかったものの、「まあ良い」までを合わせると、84.2%は問題ないと考えているようであった。
- 最も自己評価が低かったのは「授業中の受講態度」であるが、これに関しても「良い」が16.0%、「まあ良い」が51.9%であり、合わせて67.9%は問題ないと答えていた。

学内での自分自身のマナー（在学生のみ）

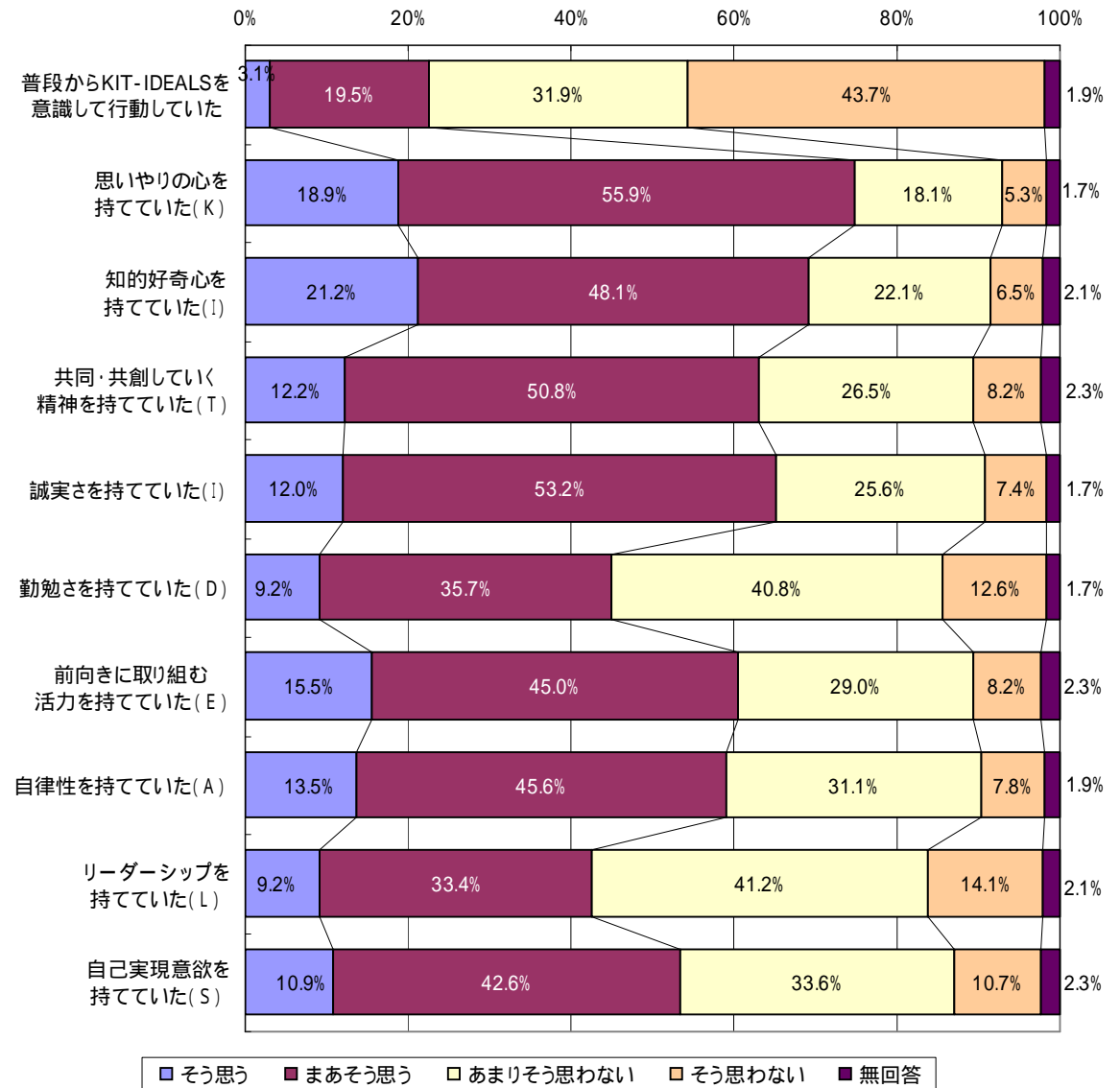


KIT-IDEALSに関して

KIT-IDEALSに関して

- 「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」に対して「そう思う」という回答はわずかに3.1%で、「まあそう思う」の19.5%と合わせても22.6%であり、普段から意識している学生は少なかった。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比べると、「思いやりの心をもっていた(K)」が74.8%と最も高く、次いで「知的な好奇心をもっていた(I)」「誠実さをもっていた(I)」「共同・共創していく精神をもっていた(T)」といったものがよく実践できているようである。
- 一方、最も低かったのは「リーダーシップをもっていた(L)」であり、できていたのは42.6%であった。その他では、「勤勉さをもっていた(D)」「自己実現意欲をもっていた(S)」も低めであった。

KIT-IDEALSに関して (在学生のみ)

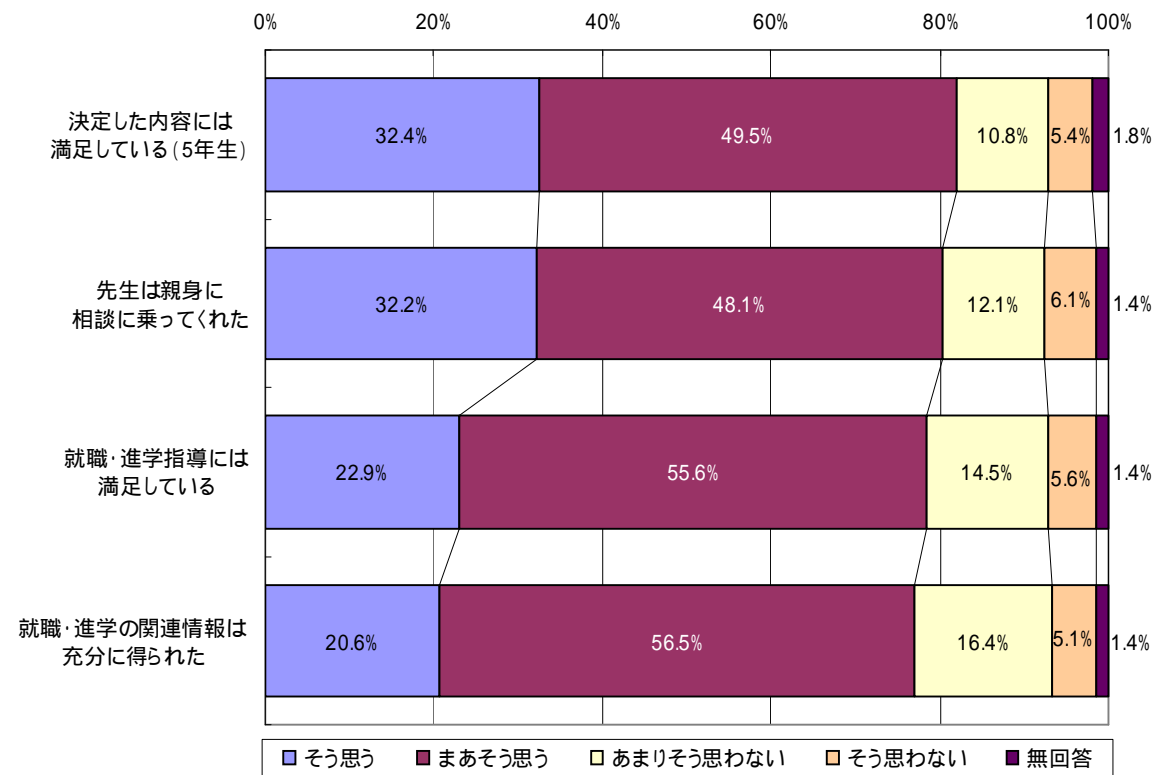


就職・進学支援に関して

就職・進学支援に関して

- 就職・進学支援に関しては4年生と5年生にのみ聞いている。
- 「決定した内容には満足している」は5年生にのみ聞いたが、32.4%は「そう思う」、49.5%は「まあそう思う」と答えており、合わせると81.9%は進路に満足しているようであった。この満足度は高いものの16.2%は不満を感じている。
- 「先生は親身に相談に乗ってくれた」では「そう思う」が32.2%、「まあそう思う」が48.1%であり、ここでも8割が満足しているようであった。
- 「就職・進学指導には満足している」では78.5%、「就職・進学の関連情報は十分に得られた」では77.1%が満足しており、就職・進学支援に関しては8割程度が満足しているとみられる。

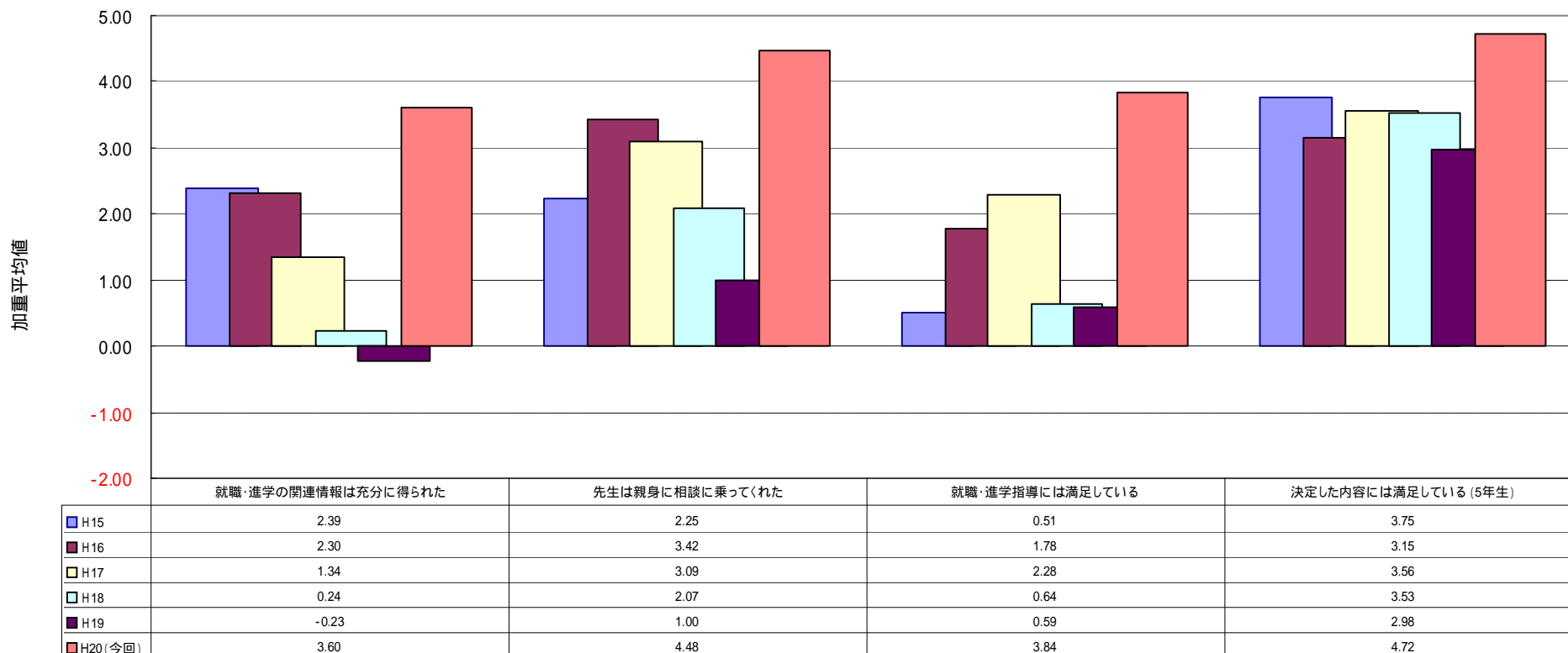
就職・進学支援の評価(在学生のみ)



就職・進学支援の年度別比較

- 「就職・進学支援」に関する質問はH15から継続して聞いているが、これまでと比べると今回の満足度が全項目で最も高く、学生の満足度が上がっていることが分かった。
- 「就職・進学の関連情報は十分に得られた」では、H15から継続的に低下して前年にはマイナスとなっていたが、今回は大きくプラスに転じていた。
- 「先生は親身に相談に乗ってくれた」も低下傾向から一気に高評価となっており、「就職・進学指導には満足している」も同様に一気に高評価となっていた。
- 「決定した内容には満足している」はこれまでも高い評価であったが、今回は更に高い評価となっており、満足度の高さがうかがえた。

就職・進学支援の評価 年度別比較

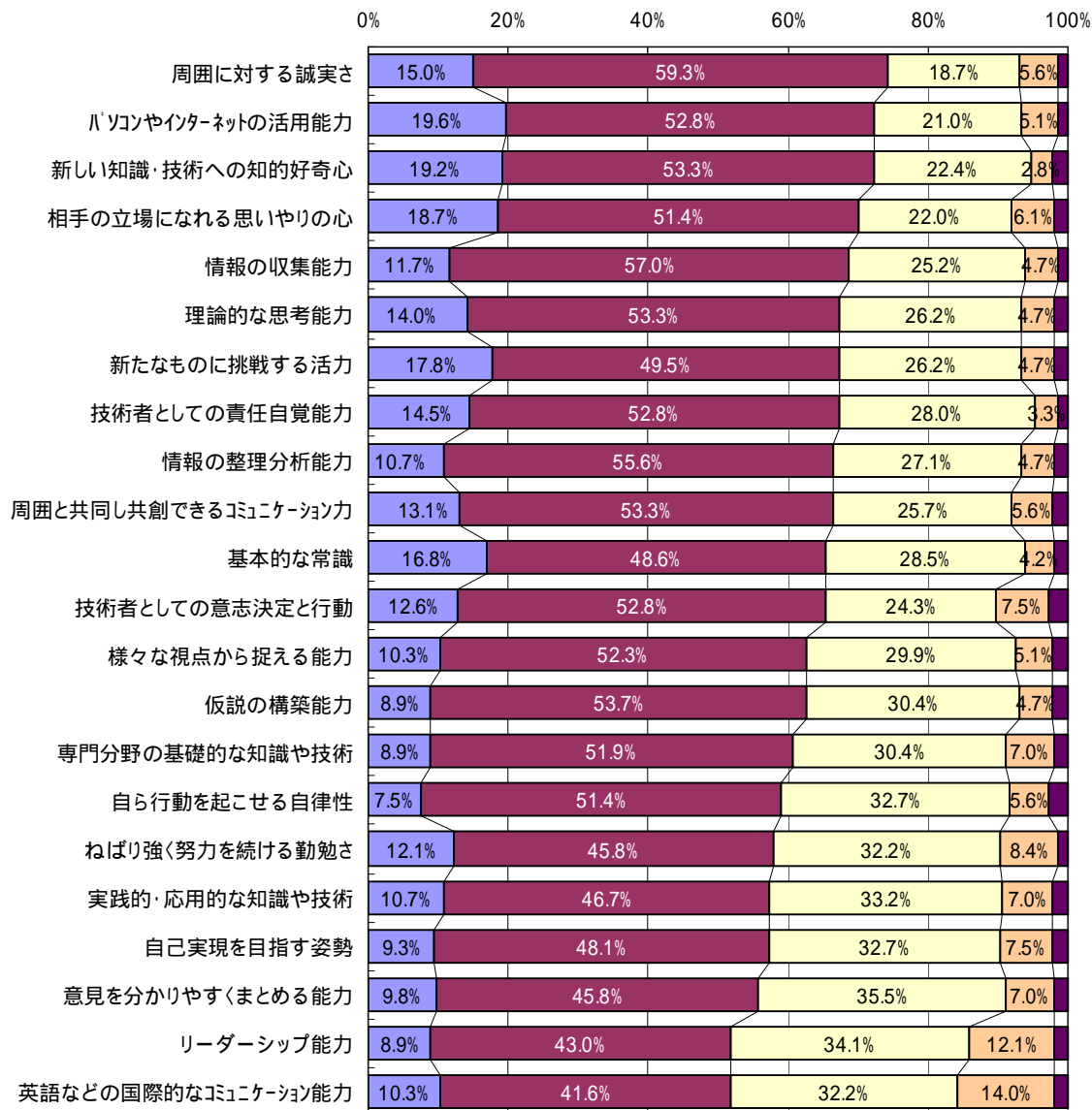


学生の能力に関して

自分自身の能力に関して

- 学生自身の現段階の能力に関しては、4年生、5年生の2学年だけに聞いたが、「満たしている」と「少し満たしている」を合わせると「周囲に対する誠実さ」が最も高く、74.3%が満たしていると自己評価していた。
- 次いで、「パソコンやインターネットの活用能力」「新しい知識・技術への知的好奇心」「相手の立場になれる思いやりの心」「情報の処理能力」までが上位5つであり、学生が自信を持っている能力と言える。
- 一方、最も低かったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」の51.9%であり、次いで「リーダーシップ能力」「意見を分かりやすくまとめる能力」「自己実現を目指す姿勢」「実践的・応用的な知識や技術」などを弱点と感じていると言える。

学生が考える現段階の自分自身の能力

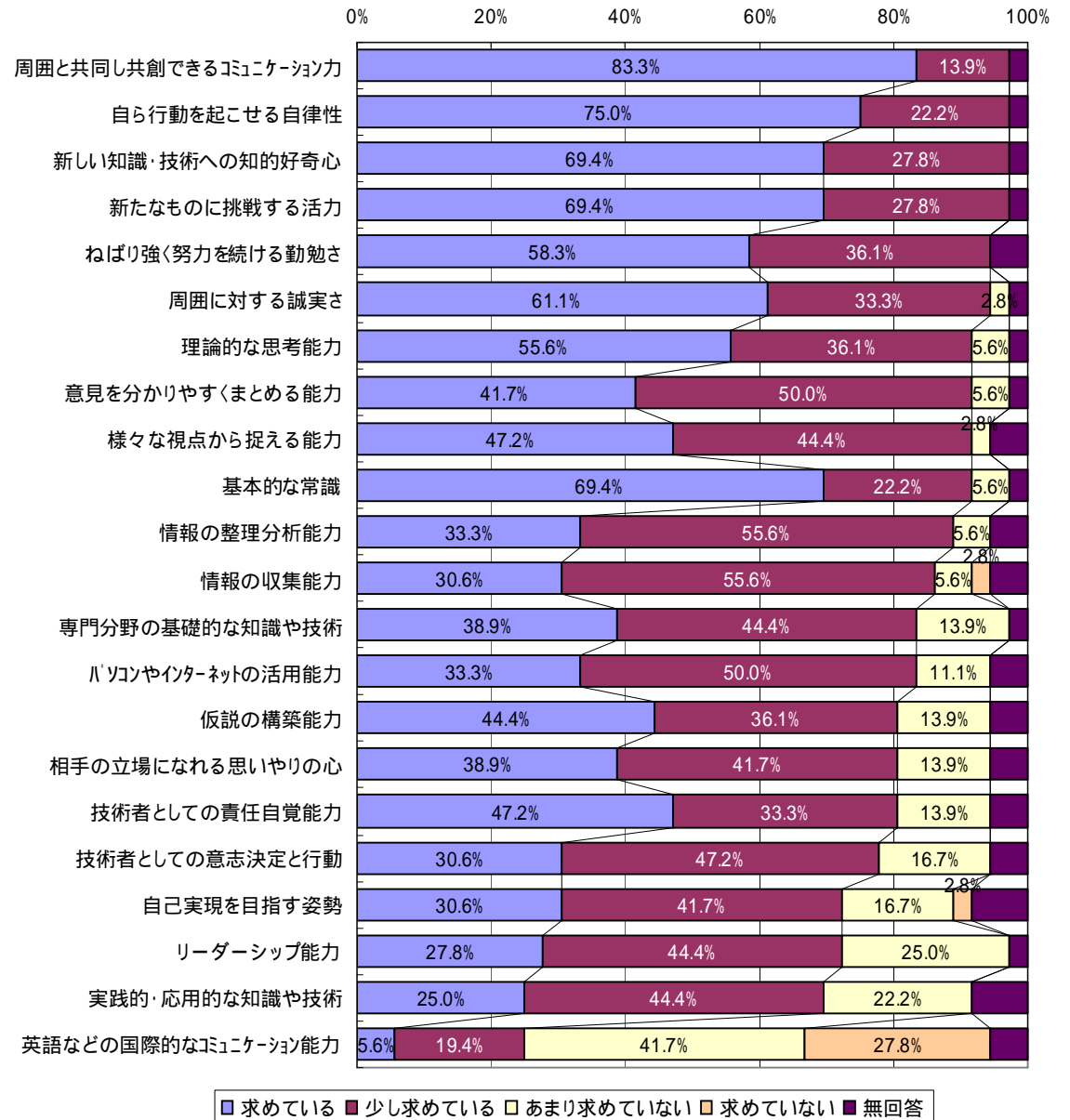


■ 満足している ■ 少し満たしている □ あまり満たしていない □ 満たしていない ■ 無回答

企業が新入社員に求める能力

- 今回は企業に対する調査を行い、その中で新入社員に求める能力を聞いた。
- 企業が最も求めていることは「周囲と共同し共創できるコミュニケーション力」であり、「自ら行動を起こせる自律性」「新しい知識・技術への知的好奇心」「新たなものに挑戦する活力」「ねばり強く努力を続ける勤勉さ」までが上位5項目であり、これらを見ると具体的な能力ではなく、仕事に対する姿勢や心構えを重視する傾向が見える。
- 一方、求めている能力は「英語などの国際的なコミュニケーション能力」であり、「求めている」と「少し求めている」の合計は25.0%、「求めている」「あまり求めている」の合計は69.5%であった。
- 次いで「実践的・応用的な知識や技術」「リーダーシップ能力」「自己実現を目指す姿勢」「技術者としての意志決定と行動」などが挙げられていたが、「求めている」「あまり求めている」の合計は3割弱にとどまっていた。

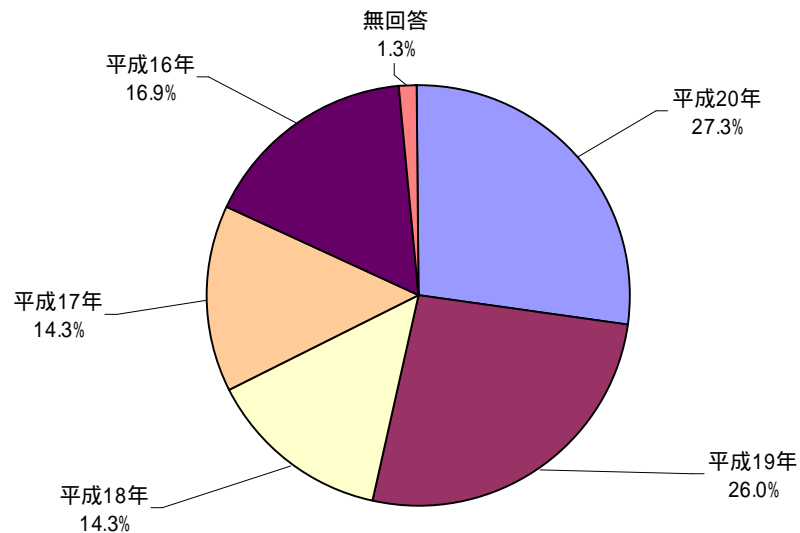
企業が考える新入社員に求める能力



回答した卒業生の基本属性

回答した卒業生(77名)の基本属性

回答した卒業生の卒業年度



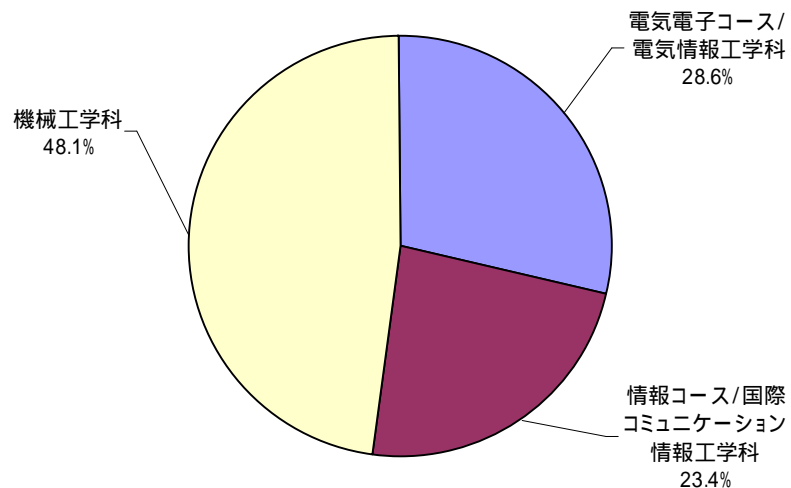
卒業生の現在の職種

| 職種 | 割合 |
|--------------------|--------|
| 研究開発 | 3.9% |
| 設計技術 | 14.3% |
| 製造・生産技術 | 23.4% |
| 建設施工管理 | 1.3% |
| コンピュータ開発(ハード・ソフト) | 2.6% |
| コンピュータサービス(SE等) | 1.3% |
| 保安関係(電気設備・消防・警備保障) | 7.8% |
| 営業職 | 5.2% |
| 事務職 | 5.2% |
| その他 | 6.5% |
| 学生 | 28.6% |
| 総計 | 100.0% |

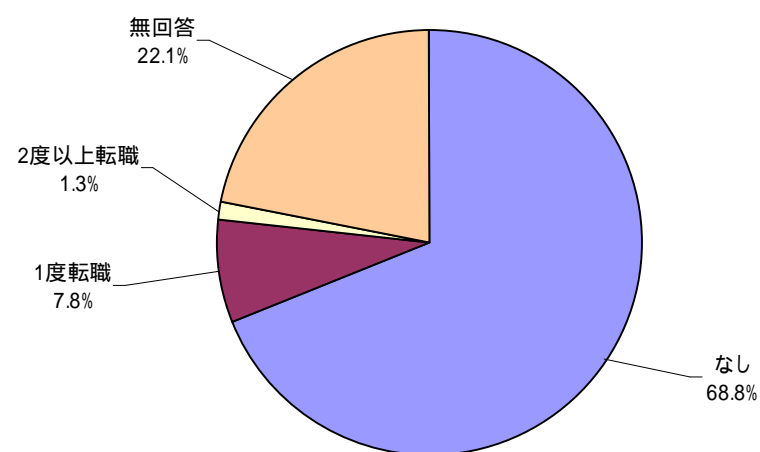
卒業生の会社の業種

| 会社の業種 | 割合 |
|-----------------------|--------|
| 建設業(総合・設備工事) | 3.9% |
| 製造業(鉄鋼、非鉄金属、金属機械) | 14.3% |
| 製造業(一般・電気・輸送用機器・精密機械) | 28.6% |
| 製造業(繊維、化学、木製品、その他) | 5.2% |
| 卸売・小売業、金融・保険業、不動産業 | 1.3% |
| 運輸・通信業 | 2.6% |
| サービス業(コンピュータ・情報サービス) | 3.9% |
| サービス業(設計、コンサルタント) | 1.3% |
| サービス業(医療、教育、放送、その他) | 2.6% |
| その他 | 7.8% |
| 無回答 | 28.6% |
| 総計 | 100.0% |

回答した卒業生の所属学科



回答した卒業生の転職経験

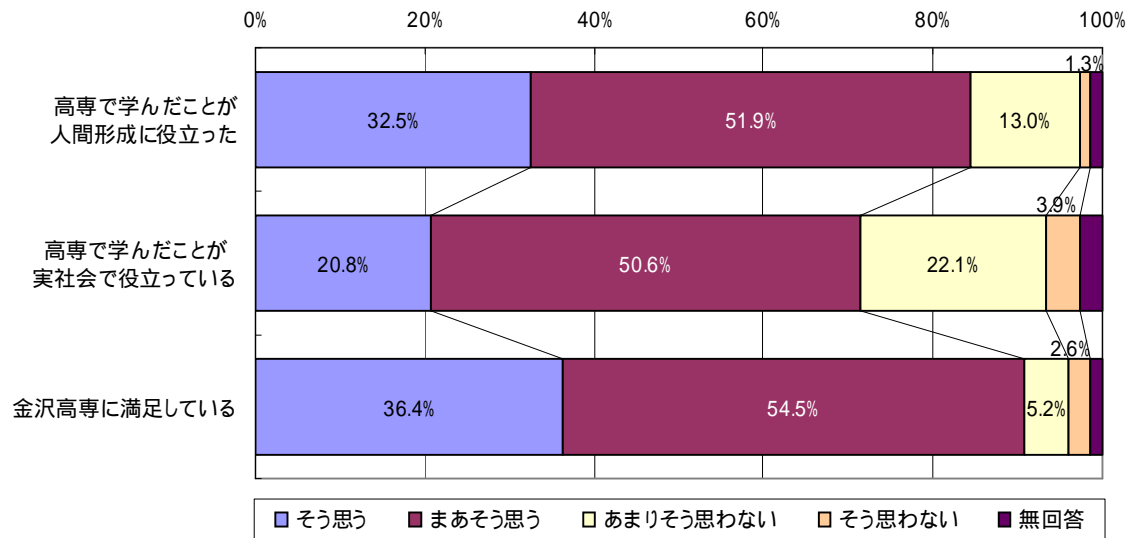


卒業生の金沢高専に対する評価

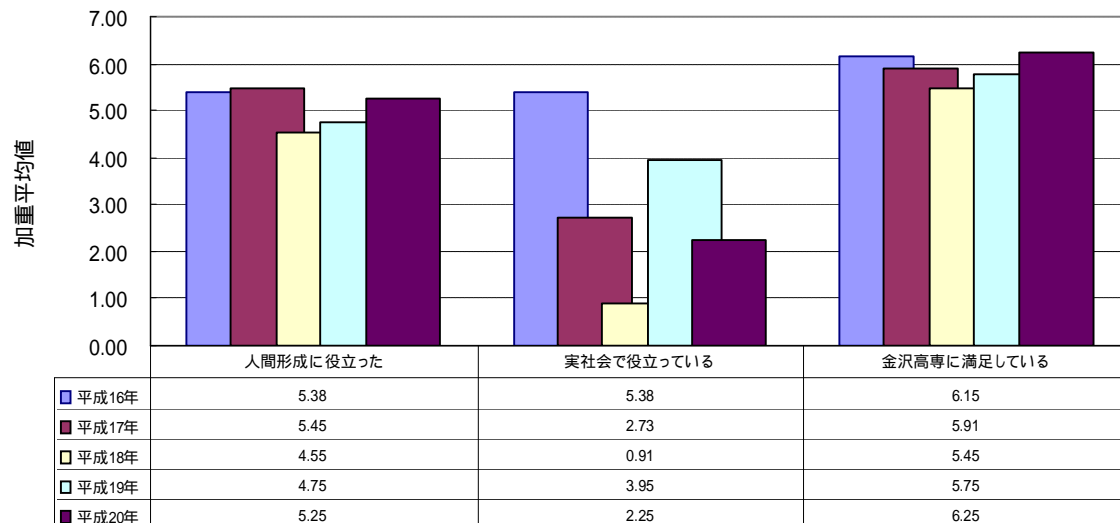
卒業生の金沢高専に対する評価 卒業年度別比較

- 卒業生には金沢高専で学んだことがどのように役立ったかを聞いたが、「金沢高専に満足している」という質問では「そう思う」が36.4%、「まあそう思う」が54.5%であり、合わせると90.9%が満足していると答えていた。
- 「高専で学んだことが人間形成に役立った」では84.4%が肯定的な意見であり、「高専で学んだことが実社会で役立っている」では71.4%が肯定的な意見であった。
- 高専の評価に関する質問はH16の調査から継続的に聞いているが、その変化を見ると、「金沢高専に満足している」はH18からわずかずつではあるが継続的に肯定的な意見が増加している。そして、「人間形成に役立った」も同様にH18から継続的に増加してきている。
- 「実社会で役立っている」はH18からH19にかけては肯定的な意見が増加していたが、今回は減少していた。

卒業生の高専の評価



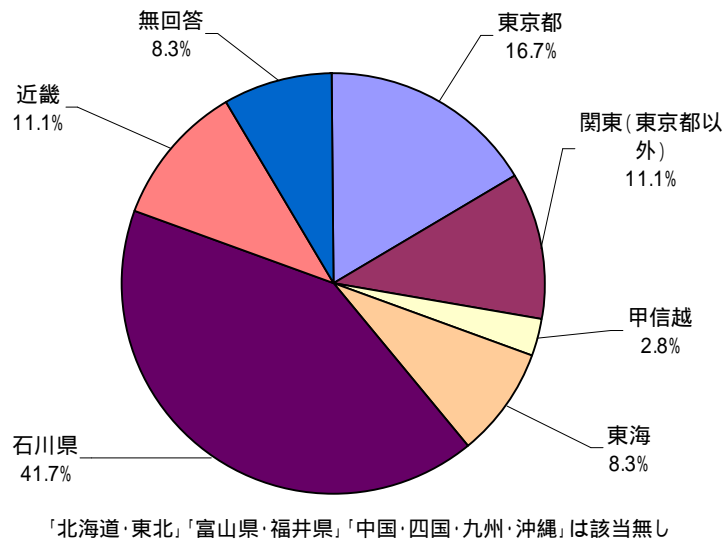
卒業生の高専の評価 卒業年度別比較



回答した企業の基本属性

回答があった企業(36社)の基本属性

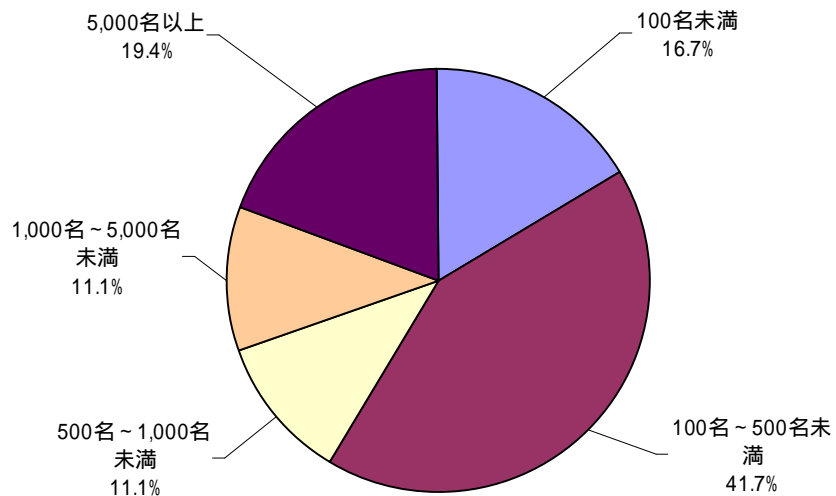
回答した企業の所在地



卒業生の会社の業種

| 会社の業種 | 割合 |
|-----------------------|--------|
| 建設業(総合・設備工事) | 5.6% |
| 製造業(鉄鋼、非鉄金属、金属機械) | 22.2% |
| 製造業(一般・電気・輸送用機器・精密機械) | 27.8% |
| 製造業(繊維、化学、木製品、その他) | 5.6% |
| 卸売・小売業、金融・保険業、不動産業 | 8.3% |
| 運輸・通信業 | 5.6% |
| サービス業(コンピュータ・情報サービス) | 5.6% |
| サービス業(設計、コンサルタント) | 2.8% |
| サービス業(医療、教育、放送、その他) | 2.8% |
| その他 | 13.9% |
| 総計 | 100.0% |

回答した企業の従業員数

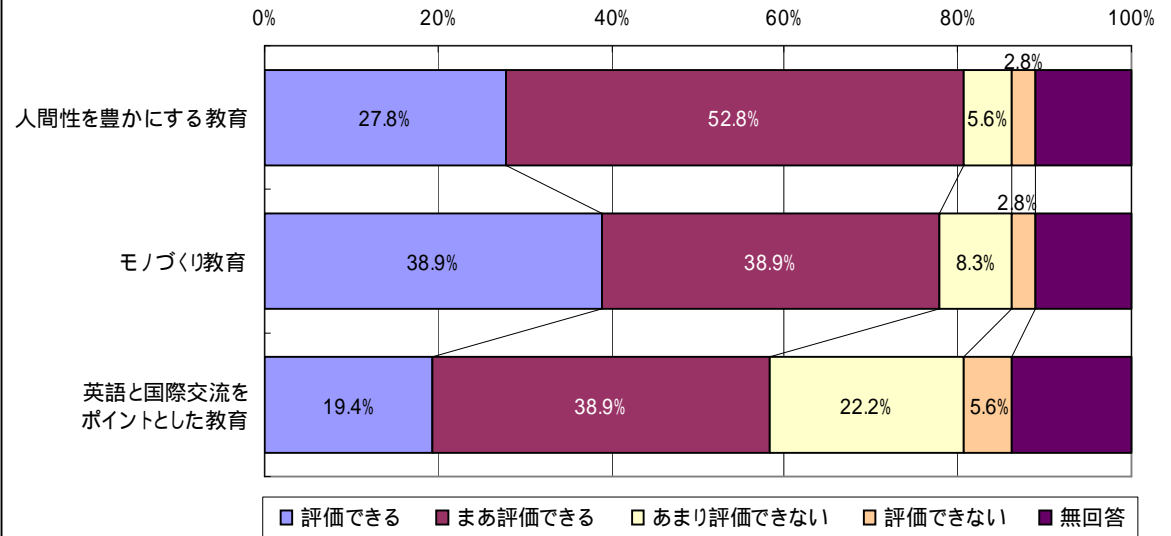


外部から見た金沢高専の教育の評価

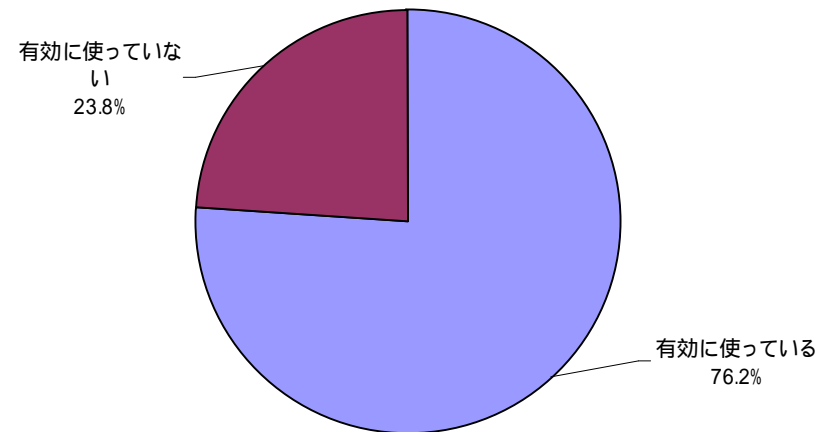
外部から見た金沢高専の教育の評価

- 今回から企業調査に「外部から見た金沢高専の教育の評価」を聞く質問を加えた。
- 「人間性を豊かにする教育」に関しては27.8%が「評価できる」、52.8%が「まあ評価できる」と答えており、合わせると80.6%は肯定的な評価であった。
- 次に「モノづくり教育」では、「評価できる」という回答が38.9%と、他の質問に比べて多いことが特徴的であり、「金沢高専のモノづくり教育」が浸透していると考えて良いのではないかと思われる。
- 一方、「英語と国際交流をポイントとした教育」では「評価できる」が19.4%、「まあ評価できる」が38.9%であり、58.3%が肯定的な意見であるものの、他の項目と比べると評価はやや低いと言える。
- 金沢高専生がインターンシップを有効に使っているかどうかを聞いたところ、76.2%は「有効に使っている」と答えていたが、「有効に使っていない」が23.8%あり、この内容に関してはしっかりと把握しておく必要があると言える。

外部から見た金沢高専の教育の評価



金沢高専生のインターンシップ活用状況

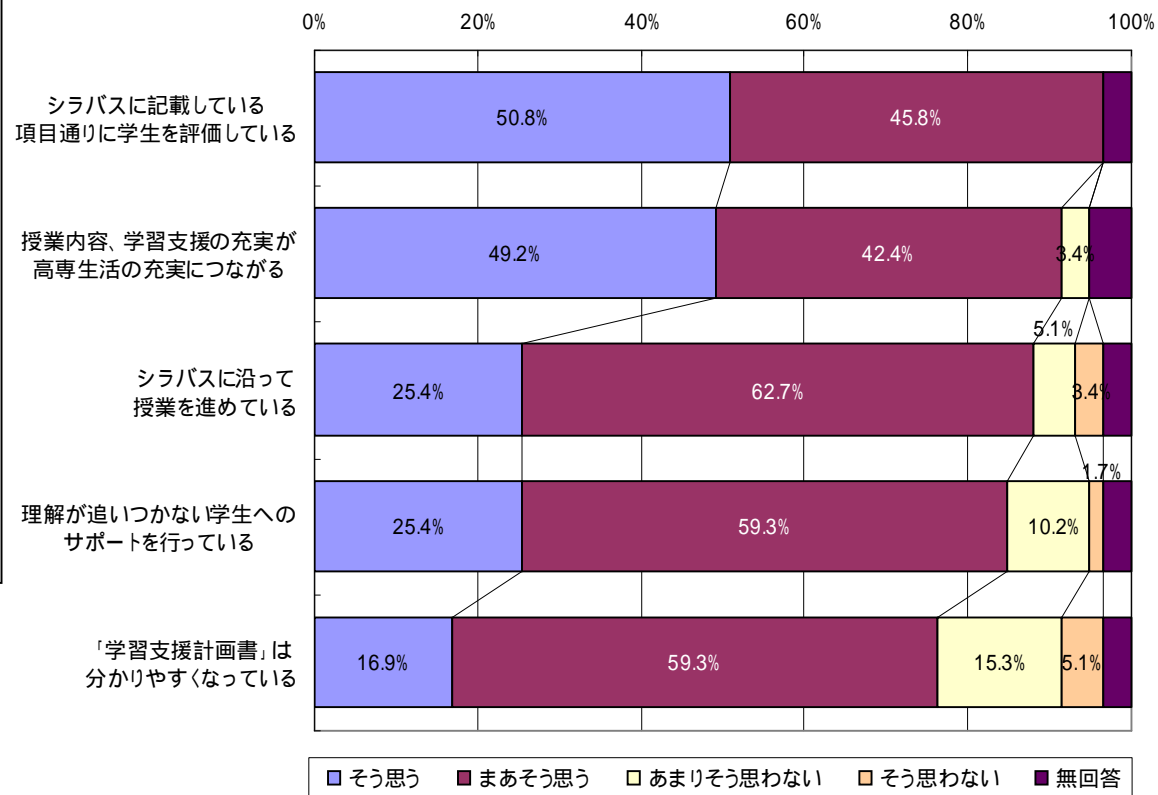


金沢高専の授業と教員業務に関して

教員の「授業および学習支援」の自己評価

- 教員に対して「授業および学習支援」の自己評価を聞いたところ、「シラバスに記載している項目通りに学生を評価している」では50.8%が「そう思う」、45.8%が「まあそう思う」と答えており、最も実施度が高かった。
- 次いで「授業内容、学習支援の充実が高専生活の充実につながる」に対しては、49.2%が「そう思う」、42.4%が「まあそう思う」と答えており、授業や学習支援の充実の重要性を感じているようであった。
- 「シラバスに沿って授業を進めている」は88.1%が肯定的な意見であったが、「そう思う」だけを見ると25.4%と多くはない。
- 「理解が追いつかない学生へのサポートを行っている」は肯定的な意見が84.7%、「学習支援計画書は分かりやすくなっている」は76.2%であり、学習支援計画書には改善の余地を感じているようであった。

教員の「授業および学習支援」の自己評価

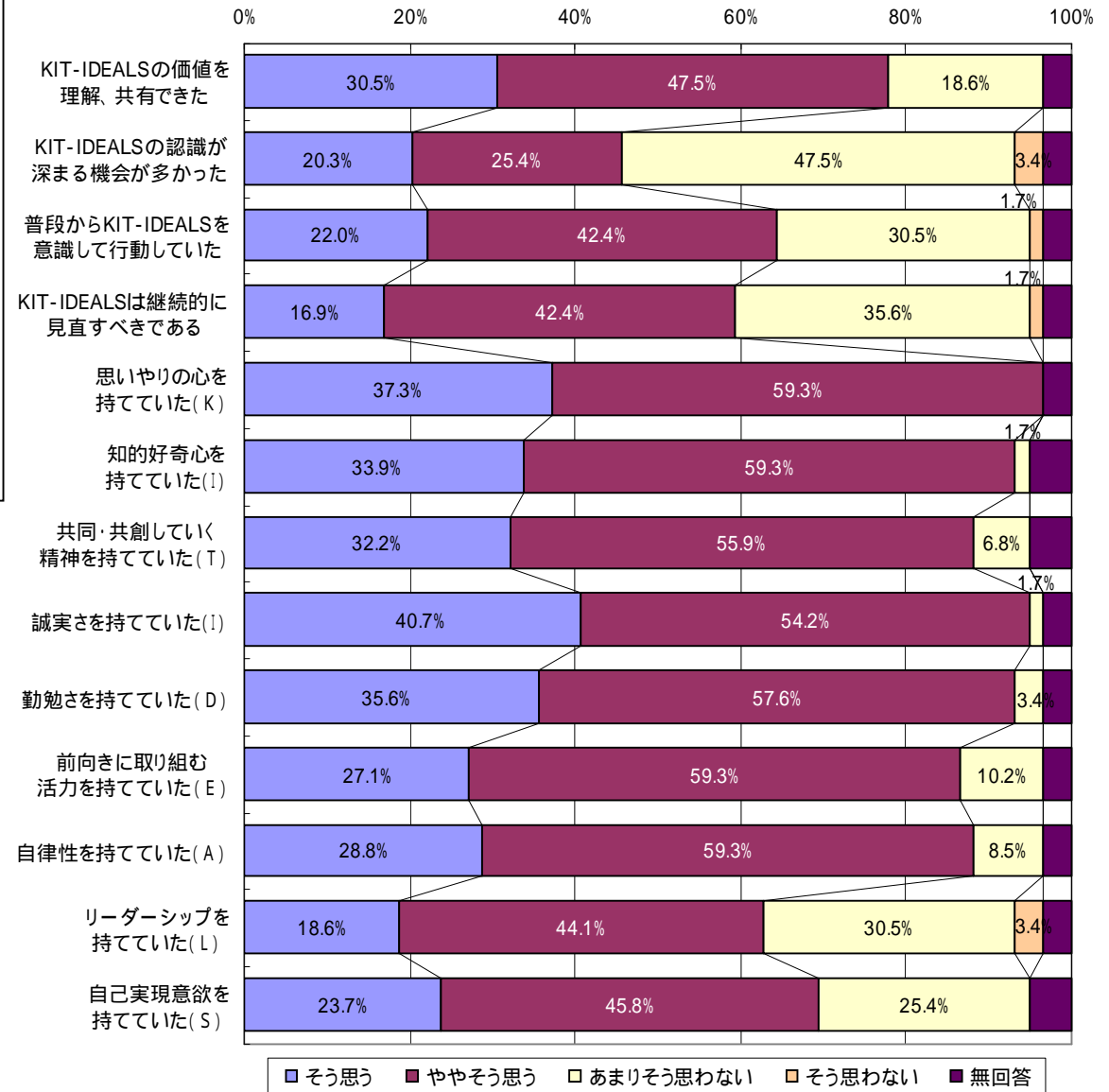


教職員の意識に関して

教職員のKIT-IDEALSに関する意識

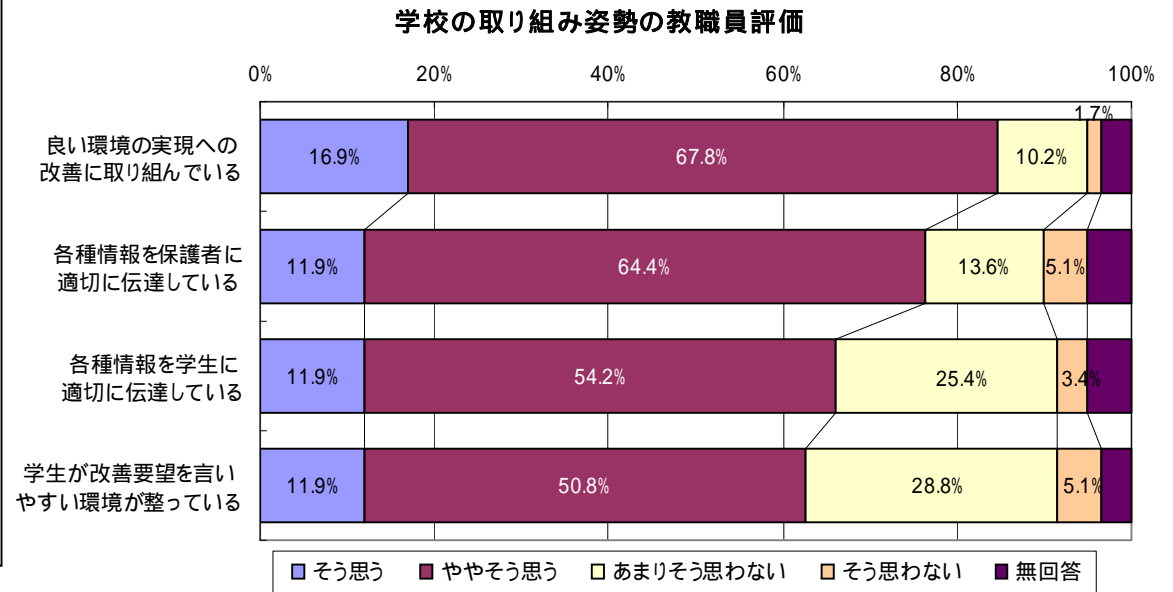
- 「KIT-IDEALSの価値を理解、共有できた」は肯定的な意見が78.0%であったが、「KIT-IDEALSの認識が深まる機会が多かった」では45.7%、「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」では64.4%であり、このあたりの意識はやや低かった。
- 「KIT-IDEALSは継続的に見直すべきである」に対しては59.3%が肯定的な意見であり、見直しを求める意見が半数以上あることが分かった。
- 「思いやりの心を持っていた(K)」「知的好奇心を持っていた(I)」「誠実さを持っていた(I)」などの各々の理念に関する項目は肯定的な意見が多かった。
- 一方、低かったのは「リーダーシップを持っていた(L)」「自己実現意欲を持っていた(S)」などであり、これらの傾向は学生の意識とよく似ていた。

KIT-IDEALSに関して(教職員)



金沢高専の取り組み姿勢の評価

- 教職員から見た金沢高専の取り組み姿勢の評価を見たところ、「良い環境の実現への改善に取り組んでいる」では16.9%が「そう思う」、67.8%が「ややそう思う」と答えており、強く感じているわけではないが84.7%が改善に取り組んでいると感じていた。
- 次に、「各種情報を保護者に適切に伝達している」では76.3%、「各種情報を学生に適切に伝達している」では66.1%が肯定的な意見であり、3～4割の教職員は情報伝達に課題を感じていると言える。
- 学校の環境として「学生が改善要望を言いやすい環境が整っている」に対しては、11.9%が「そう思う」、50.8%が「まあそう思う」と答えており、62.7%は肯定的な意見であったが、4割は否定的な意見であり、改善が必要なポイントといえる。



平成20年度

KTC総合アンケート調査結果[報告書]

| | |
|----------|--------------|
| 発行日 | 平成21年7月8日 |
| 発行者 | 金沢工業高等専門学校 |
| 調査票設計・分析 | 有限会社 アイ・ポイント |
| 編集 | 金沢工業大学企画部CS室 |

無断複製厳禁

再生紙を使用しています